Panasonic

パナソニックコンピューター

AL-N0

取扱説明書

Let's NOTE mini

（Windows 3.1用）

保証書別添付

■この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。

■保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、
販売店からお受け取りください。

このたびは、パナソニックコンピューター AL-N0 シリーズ をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
本書は、本機の基本的な取り扱いについて説明しています。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存し、必要に応じてご利用ください。

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっております。

この装置は、第二種情報装置(住宅地域又はその隣接した地域において使用されるべき情報装置)で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しております。
しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。なお、充電されたバッテリーパックを装着して使用される場合、瞬時電圧低下に対して支障なくお使いいただけます。（詳しくは、本文をご覧ください。）
・漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

もくじ

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

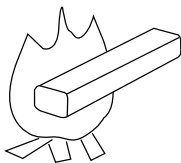
⚠ 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

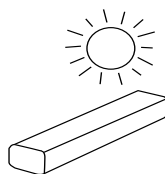
⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 危険　バッテリーパックに関する注意

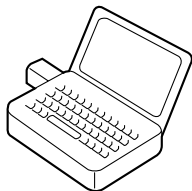
■火中に投入したり加熱したりしない

禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

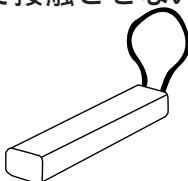
■火のそばや炎天下など、高温の場所で充電・使用・放置をしない

禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

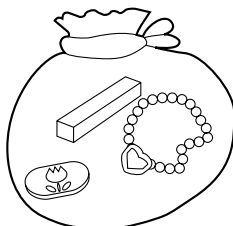
⚠危険 **バッテリーパックに関する注意**

■指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱・発火・破裂の原因になります。

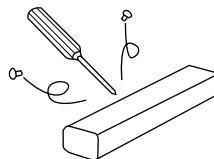
■プラス（＋）とマイナス（－）を金属などで接触させない

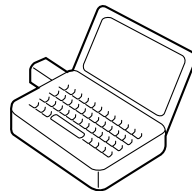
禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

■ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

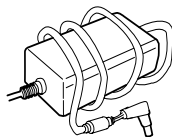
■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない

分解禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

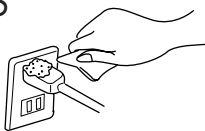
■付属の充電式電池は必ず本機で使用する

本機専用の充電式電池です。
本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

⚠警告

■電源コード、ＡＣ アダプターを破損するようなことはしない
傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、重い物を載せたり、束ねたりしない

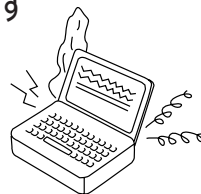
禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

●コードやアダプターの修理は販売店にご相談ください。

■電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。電源プラグを抜き乾いた布でふいてください。

●長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

■異常が起きたらすぐにＡＣアダプターとバッテリーパックをはずす

電源プラグを抜く

・本体が破損した
・煙が出ている
・異臭がする
・発熱している

などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

●異常が起きたら、すぐに電源スイッチを切って AC アダプターとバッテリーパックをはずし、販売店にご相談ください。

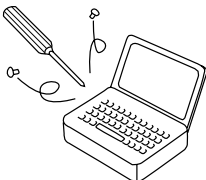
■ACアダプターのプラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災原因になります。

●傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 警告

■本機を分解したり、改造したりしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また分解・改造は、火災の原因になります。

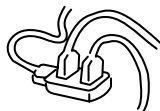
■本機の上に水などの入った容器や金属物を置かない

禁止

水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

●内部に異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切ってACアダプターとバッテリーパックをはずし、販売店にご相談ください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

禁止

タコ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■ぬれた手でACアダプターのプラグを抜き差しはしない

禁止

感電の原因になります。

⚠ 注意

■ヘッドホン使用時に音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■湿気やほこりの多い場所に置かない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

⚠注意

■本機の上に重いものを置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

■不安定な場所に置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になります。

■1時間ごとに10～15分間の休憩をとる

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

■必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、発煙の原因になることがあります。

■炎天下の車中に長時間放置しない

禁止

高温により、キャビネット等が過熱・変形・溶解する原因になることがあります。

■ACアダプターを接続したまま移動しない

禁止

コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

●コードが傷ついた場合は、すぐにACアダプターをはずして販売店にご相談ください。

■ACアダプターはプラグ部分を持って抜く

コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

保管・使用場所に関するお願い

・直射日光の当たる場所や、極端に高温または低温の場所に置かない。
・テレビ、ラジオ、無線機のそばで使用しない。
・衝撃、振動のある場所で使用しない。
・強い磁界を発生する装置の近くで使用しない。

持ち運ぶときのお願い

・電源を切って（POWERインジケーターが消灯していることを確認して）から運ぶ。
・紙などをはさんだまま運ばない。
・ディスプレイを開けたまま運ばない。
　ディスプレイを直接持って運ばない。
・落とさない。
・机のカドなど固いものにぶつけない。

ソフトウェア使用許諾書

第１条　権利

お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、付属のフロッピーディスク、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第２条　第三者の使用

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第３条　コピーの制限

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第４条　使用コンピューター

本ソフトウェアは、コンピューター１台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第５条　解析、変更および改造

本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第６条　アフターサービス

お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第７条　免責

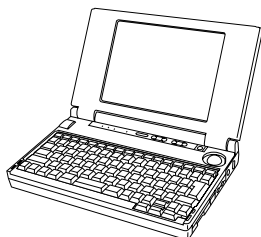
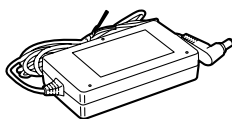
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第６条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また、この製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

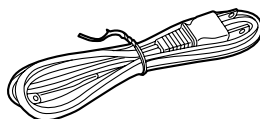
第８条　その他

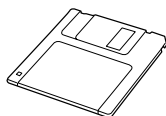
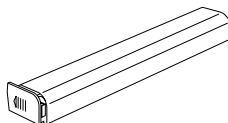
上記第６条のアフターサービスには、付属の「ソフトウェアサポートカード」が必要です。本ソフトウェアのバックアップと併せて大切に保管してください。

梱包物の確認

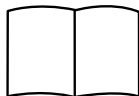
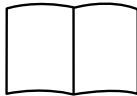
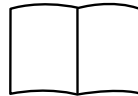
下記のものがすべてそろっているか確かめてください。
万一、足りない場合、または購入したものと異なる場合は、お買い上げになった販売店にお確かめください。

本体

AC アダプター

品番：AL-AA170

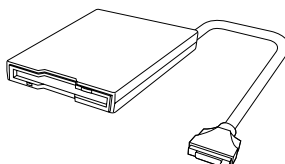
AC コード

フロッピーディスク

保存ディスク

バッテリーパック

品番：AL-NFBL010J

取扱説明書

（本書）

Windows Quick ユーザーズガイド

日本語入力ガイド MS IME for Windows

その他の印刷物

- ●保証書
- ●ご相談窓口のご案内
- ●ご愛用者登録カード / ソフトウェアサポートカード
- ●マイクロソフト社の Certficate of Authenticity カード
- ●マイクロソフト社のユーザー登録カード
- ●サムシンググッド社のユーザー登録カード

外付け フロッピーディスクドライブ

品番：AL-NFFE000J
オプション品番：AL-NFFE010J

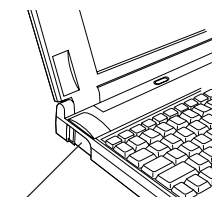
各部の名称と働き

前面／側面

パネルスイッチ

ディスプレイを閉じると、このボタンが押されて、自動的に画面が消えます。ディスプレイを開けると、再び画面が表示されます。（このボタンを手で押しても画面が消えます。ご注意ください。）

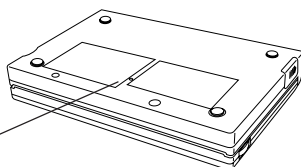
バッテリーパック挿入口

ここから、バッテリーパックを装着します。バッテリーパックは、ACアダプターを接続しない場合に本体の電源となります。

バッテリーパック挿入口

キーボード

コンピューターに指示を与える装置です。

リセットスイッチ

コンピューターが動かなくなって操作できなくなったときに、先の細いもので押すと再起動します。

リセットスイッチ

内蔵スピーカー

ディスプレイ

LED インジケーター

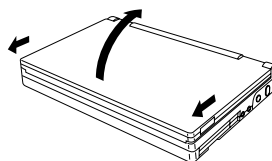
CapsLK/NumLK/ScrLK インジケーター
機能時：緑色
[Fn] キーを押しながら、[F9] キーを押した場合に、バッテリーの残量表示を行います。(P.46)

POWER インジケーター
電源 ON 時：緑色

BATT（Battery）インジケーター
バッテリーパックの充電状態を表示します。(P.45)

HDD インジケーター
HDD 動作中：緑色

◆ディスプレイを開ける

ディスプレイの両サイドにあるオープンラッチを手前にスライドさせ、ディスプレイを上にあげます。

オープンラッチ

ここをスライドさせてディスプレイを開けます。

音量調節スイッチ

内蔵スピーカーの音量を、無音、小音、大音の３段階で調節します。

輝度調節ボタン

ディスプレイの明るさを調節します。

コントラスト調節ボタン

ディスプレイの表示の濃さを調節します。

電源スイッチ（POWER)

本体の電源の ON/OFF を切り替えます。

クリックボタン

トラックボールを使って操作するとき､ここを押すとメニューの選択などができます。

トラックボール

指で、前後左右に回転させると、カーソルがその方向に動きます。

ヘッドホン端子 (PHONES)

市販のオーディオ用モノラルヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

マイクロホン端子 (MIC)　市販のマイクロホンを接続します。

PC カードスロット

JEIDA 規格に準拠したカード（PCMCIA）をセットします。

後面

DC-IN Jack (DC IN15V)
付属の AC アダプターの DC プラグを接続します。

赤外線通信ポート
赤外線通信を行うときに使用します。

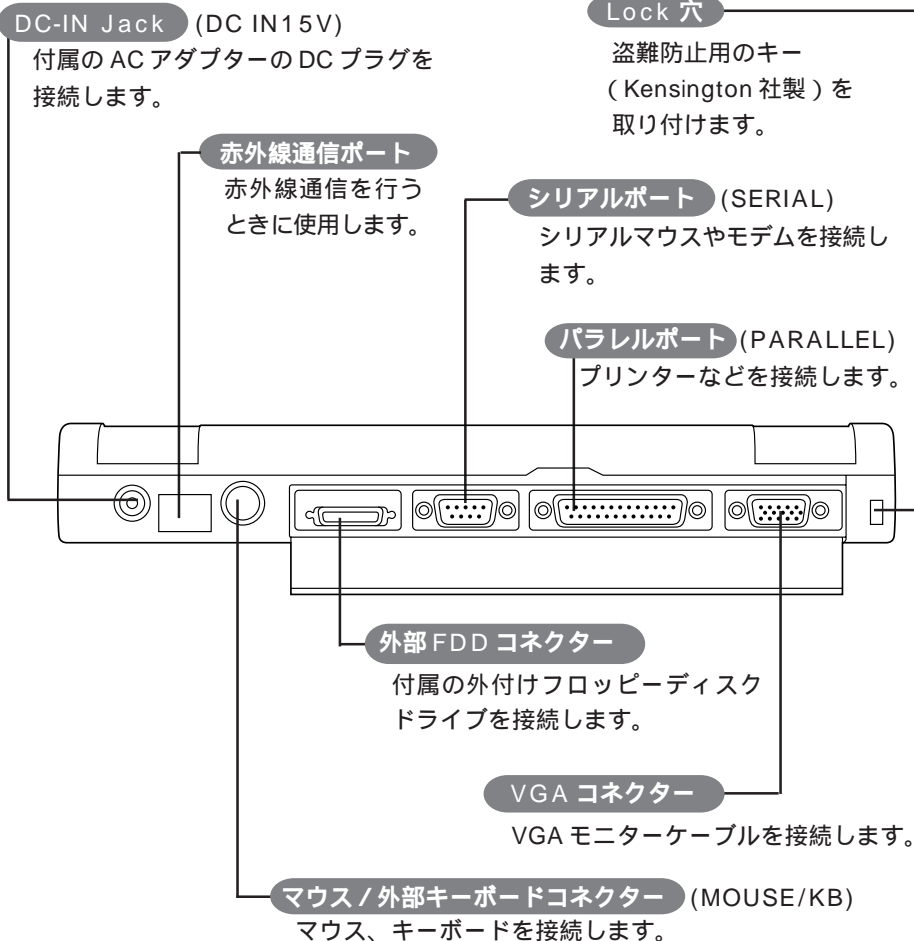
Lock 穴
盗難防止用のキー（Kensington 社製）を取り付けます。

シリアルポート (SERIAL)
シリアルマウスやモデムを接続します。

パラレルポート (PARALLEL)
プリンターなどを接続します。

外部 FDD コネクター
付属の外付けフロッピーディスクドライブを接続します。

VGA コネクター
VGA モニターケーブルを接続します。

マウス／外部キーボードコネクター (MOUSE/KB)
マウス、キーボードを接続します。

◆お手入れのしかた

・**ディスプレイ部分**
ガーゼなどの柔らかい布にイソプロピルアルコールやエチルアルコールを十分に浸み込ませて、軽くふきとります。アセトンなどのケトン類やキシレン、トルエンなどの芳香族類の溶剤は使用しないでください。

・**ディスプレイ以外の部分**
柔らかい布に水または台所用洗剤を含ませて固くしぼってから、やさしくふきとります。ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用するのは避けてください。また、化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

・ほこりは、掃除機で吸い取るなどして取り除いてください。

キーボード

本機のキーボード配列は、JISに準拠しています。文字入力キー以外にいろいろな機能をもつキーがあります。

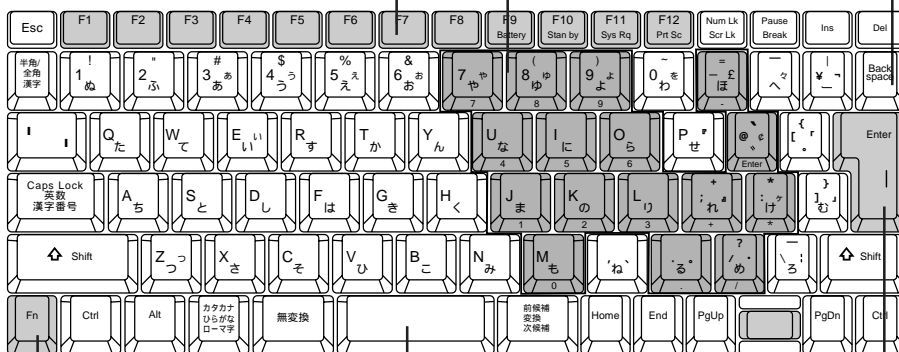
テンキー

外部キーボードやテンキーパッドが接続されていないときに、[Shift] キーと [NumLK] キーを押してテンキーを有効にすると、数字が入力できるようになります。

ファンクションキー

使用するソフトウェアによっていろいろな役割を持たせています。

Backspace キー

文字入力のときに使用します。カーソルの左側の文字を消します。

空白（スペース）キー

文字と文字の間に空白（スペース）を入れるときに使用します。

カーソル移動キー

カーソルを動かすときに使用します。

Fn キー

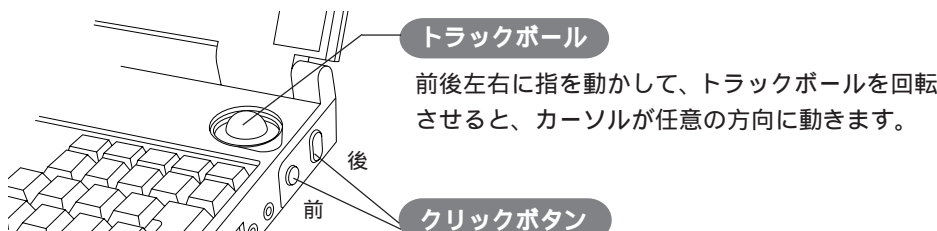
他のキーと組み合わせて押すことによって、特殊な機能を有効にします。(P.47)

Enter（リターン）キー

命令やデータの区切りに押し、入力した情報をコンピューターに伝えます。

トラックボールとクリックボタン

画面の位置を指定して、コンピューターに命令を与える装置のひとつです。トラックボールとクリックボタンを組み合わせて使うと、別売りのマウスと同じ働きをさせることができます。Windows やマウス対応のアプリケーションソフト上で、画面上のメニューを選んだり、図形を描いたりすることができます。

後
前

トラックボール

前後左右に指を動かして、トラックボールを回転させると、カーソルが任意の方向に動きます。

クリックボタン

ここを押すと、メニューの選択などが行えます。

◆基本的な操作

クリック　　　　：後または前ボタンを押して離す。
ダブルクリック：後または前ボタンを続けて2回すばやく押して離す。
ドラッグ　　　　：後または前ボタンを押したまま、トラックボールを回転する。

参考

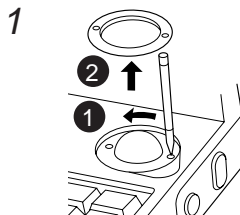
●2つのボタンの働きは、使用するアプリケーションソフトによって異なります。通常は後ボタンで動作します。
●前ボタンはマウスの右ボタンと同じ働きをします。後ボタンはマウスの左ボタンと同じ働きをします。
●操作方法の詳細は、『Windows Quick ユーザーズガイド』を参照してください。

◆清掃のしかた

トラックボールの動きが悪くなった場合は、中にゴミやほこりがたまっていることがあります。このようなときは以下の手順に従って汚れをふきとってください。

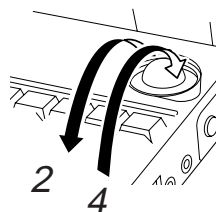
1. カバーを取り外す。

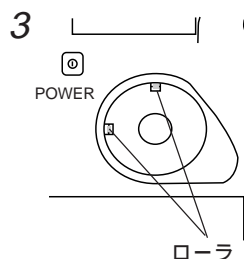
❶ ボールペンなど、先のとがったものをカバーの穴に差し込み、左方向に回します。
❷ 少し浮き上がりますので、そのまままっすぐに持ち上げます。

1
❷
❶

お願い

内部には絶対に触れないでください。また、異物を入れないように注意してください。故障の原因になります。

2. ボールを取り出し水洗いする。

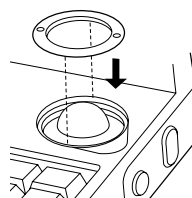
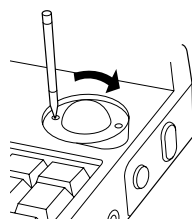
手を添えて、本体を少し傾けてボールを取り外します。水洗いした後、布で水気をふきとります。
シンナーやベンジンなどの溶剤は使用しないでください。

3. ローラ部分は歯ブラシ等で拭く。

歯ブラシ等のブラシを用いて、ローラ部分を傷つけないように汚れを取ってください。
汚れがひどい場合には、イソプロピルアルコールやエチルアルコールをブラシに染み込ませて用いてください。
これら以外の溶剤は、本体を変形または変質させる可能性がありますので、使用しないでください。

4. ボールを戻す。

ボールにゴミやホコリが付いていないか確認してから、ボールをもとの位置に戻します。

5. カバーを戻す。

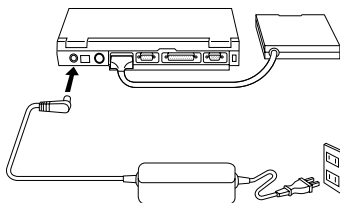
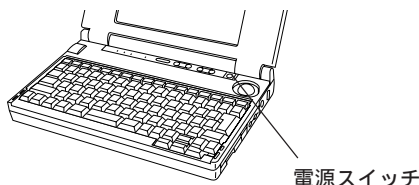
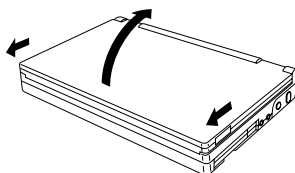
❶ カバーの突起部分をミゾに合わせてしっかりとはめ込みます。

❷ ボールペンなど先のとがったものをカバーの穴に差し込み、右方向にカチッと音がするまで 回します。

はじめかた・終わりかた

本機には、Microsoft® MS-DOS® Version6.2/V（以降 MS-DOS）と Microsoft® Windows® Version3.1（以降 Windows）があらかじめインストールされています。ここでは、電源を入れて Windows の操作に入るまでの手順を説明します。

はじめかた

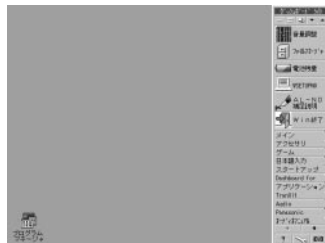
1. AC アダプターを接続する。

付属の専用 AC アダプター (品番：AL-AA170) を使用してください。それ以外の AC アダプターや市販のカーアダプターなどは絶対に使用しないでください。
コンピューター本体にACアダプターを接続しないときは、コンセント側も抜いておいてください。

2. ディスプレイを開けて、電源を入れる（電源スイッチを押す）。

ライセンスアグリーメント画面が表示されます。
画面の表示と「ソフトウェア使用許諾書」(P. 10 と P. 98) をよく読み、内容を確認してください。

3. ライセンスアグリーメント画面の内容を承諾し、[Y] キーを押す。

自動的に MS-DOS と Windows が起動され、右のような Windows の画面が表示されます。

◆２回目以降に起動する場合

２回目以降に起動したときには、ライセンスアグリーメントの画面は表示されません。
電源スイッチを入れると、自動的にWindowsの画面が表示されます。

4. 日付と時間を設定する。

Windows 上の「メイン」グループの「コントロールパネル」を開けて、「日付と時刻」アイコンをダブルクリックし、日付と時刻を設定します。
（最初に設定しておくと、次回電源を入れたときに、再度設定する必要はありません。）

参考

トラックボールおよびマウスの基本的な操作は以下の通りです。

クリック　　　　：後（左）または前（右）ボタンを押して離す。
ダブルクリック　：後（左）または前（右）ボタンを続けて2回すばやく押して離す。
ドラッグ　　　　：後（左）または前（右）ボタンを押したまま、トラックボールを回転するかマウスを移動する。

２つのボタンの働きは、使用するアプリケーションソフトによって異なります。
通常は後（左）ボタンで動作します。

◆インストールディスクについて

ハードディスクの内容が消えてしまったときなど､再インストールを行う必要が起こったときのために、必ず、インストールディスクを作成しておいてください。(作成方法については、20 ページを参照してください。)
インストールディスクの作成には､フロッピーディスク (2HD) 28枚が必要です。

終わりかた

1. Windows を終了する。

以下のいずれかの方法で終了させます。

●ダッシュボードの「Win 終了」をクリックする。
●プログラムマネージャーの「アイコン」メニューを選択して､「Windowsの終了」をクリックする。

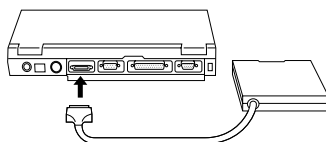
2. 電源を切る。

お願い

●電源を切るときは、必ず WIndows を終了してください。終了しないで電源を切ると、ハードディスクのデータを壊してしまうおそれがあります。
●電源を切った後、再度電源を入れる場合は、5 秒以上の間隔をあけてください。

インストールディスクの作成のしかた

まず、フロッピーディスク（2HD）を 28 枚、準備してください。
1.44M バイトにフォーマット済みのフロッピーディスクを使用すると、インストールディスクを早く作成できます。

1. **外付けフロッピーディスクドライブを取り付ける。****（P.21 ）**

2. **ディスプレイを開けて、電源を入れる。**
Windows の画面が表示されます。

3. **Windows を終了する。****（P.19 ）**

4. **MS-DOS プロンプト（C：\ >）に続けて、以下のように入力する。**

CD \MKD [Enter]
MKDISK [Enter]

5. **以降、メッセージに従って操作する。**

お願い

画面に表示されるフロッピーディスクの名称（ユーティリティディスク）を、ラベルに書いてフロッピーディスクに貼っておいてください。

フロッピーディスクの使い方

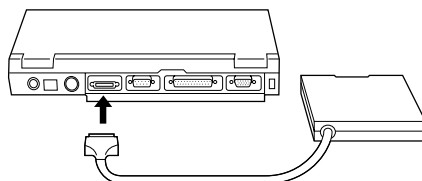
フロッピーディスクを使用するときは、付属の外付けフロッピーディスクドライブ(品番：AL-NFFE000J) を取り付けてください。ここでは、外付けフロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方について説明します。また、フロッピーディスクの取り扱い方についても説明します。

外付けフロッピーディスクドライブの取り付け方

1. 本体の電源を切る。

❶ 動作中のアプリケーションを終了し、Windows も終了します。
❷ [Fn] キーを押しながら電源スイッチを切り (P.47)、ACアダプターを取り外します。

2. 外付けフロッピーディスクドライブを接続する。

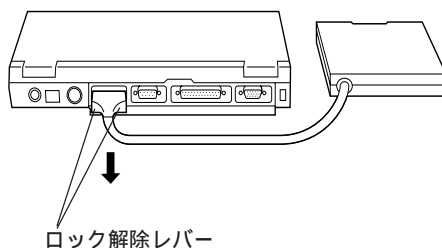
本体背面の FDD コネクターに外付けフロッピーディスクドライブのコネクターを接続します。
コネクターの向きに注意して、接続してください。

外付けフロッピーディスクドライブの取り外し方

1. 本体の電源を切る。

❶ 動作中のアプリケーションを終了し、Windows も終了します。
❷ [Fn] キーを押しながら電源スイッチを切り、AC アダプターを取り外します。

2. 外付けフロッピーディスクドライブを取り外す。

ロック解除レバーを押しながら、フロッピーディスクドライブのコネクターを引き抜きます。

ロック解除レバー

お願い

フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、中のフロッピーディスクは取り出してください。(P.23)

フロッピーディスクの取り扱い方

◆各部の名称と働き

シャッター

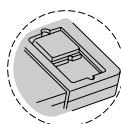
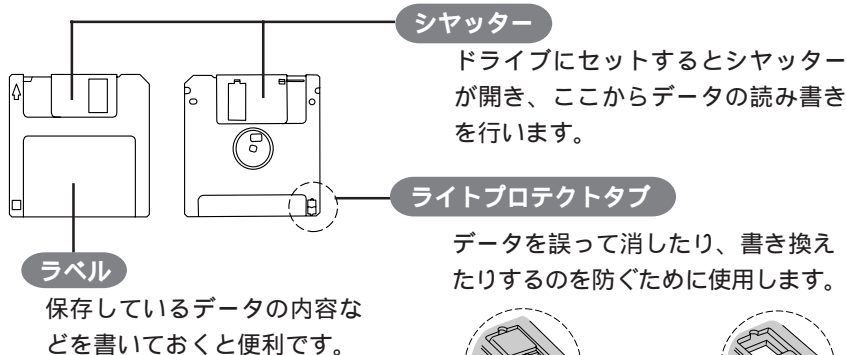
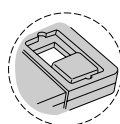
ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ライトプロテクトタブ

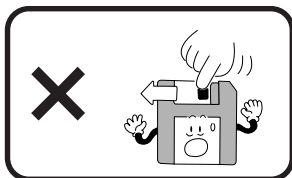
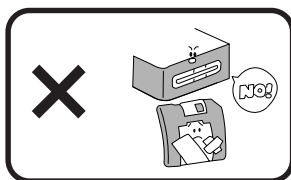
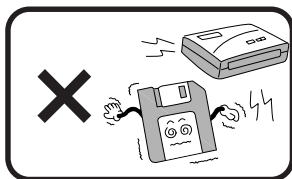
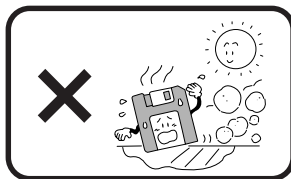
データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

書き込み可能な状態　　書き込み禁止の状態

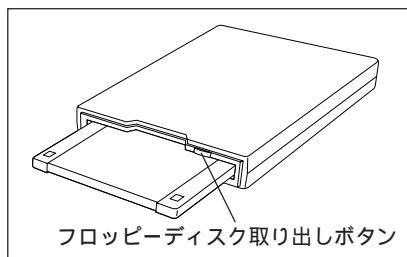
ラベル

保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

◆取り扱い上のお願い

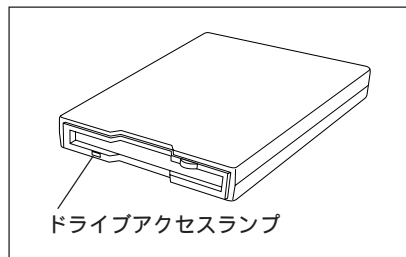
下記のような取り扱いをすると、記録したデータが壊れたり、フロッピーディスクが取り出せなくなることがあります。

こんなことはしないでください

シャッターを手で開ける。

ラベルを重ねてはる。

磁気ネックレスやヘッドホンステレオなど、磁気を帯びたものを近づける。

高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管する。

◆フロッピーディスクのセット／取り出し

セットする

フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入します。

取り出す

ドライブアクセスランプ

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、フロッピーディスク取り出しボタンを押して取り出します。

お願い

ドライブアクセスランプの点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

参考

●「読み出し」・「書き込み」とは

フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」、メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。

●フォーマット

新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」（初期化）といいます。フォーマットはMS-DOSのFORMATコマンドを使って行います。

●使用できるフロッピーディスクの種類と記憶容量

フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。

2HD ―― 1.44Mバイト／1.2Mバイト＊
2DD ―― 720Kバイト

＊2HDのフロッピーディスクはフォーマットの方法によって、記録容量を変えることができます。1.2Mバイトのフロッピーディスクを使用する方法については、65ページを参照してください。

●バックアップ

ハードディスクに蓄えられたデータは、操作の誤りなどで壊されることがあります。そのような場合に備えて、データのバックアップ（ファイルの複製）をしておいてください。バックアップは、MS-DOSのCOPYコマンド、XCOPYコマンドなどで行います。Windows上では、ファイルマネージャーを使って行います。

バッテリーパックの使い方

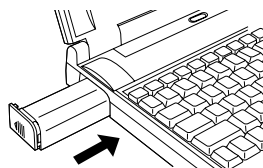
AC アダプターを接続しない場合、本体の電源になるのがバッテリーパックです。室外で、または、持ち運んで使用するときに便利です。お買い上げ時には、バッテリーパックは装着されていません。以下の手順に従って取り付けてください。
また、長期間本体を使わない場合は、バッテリーパックを取り外しておくことをお勧めします。

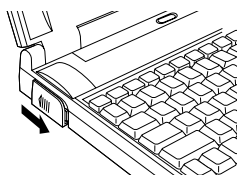
お願い

サスペンド中にAC アダプターとバッテリーパックの両方ともを抜くと、データが失われますのでご注意ください。(P.60)

取り付け方

1. バッテリーパックを挿入する。

向きに注意しながら、本体左側の挿入口からゆっくりと挿入します。

2. バッテリーパックのフタを矢印の方向にスライドさせ、ロックする。

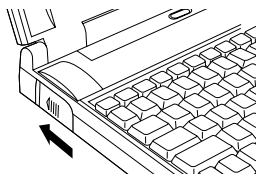
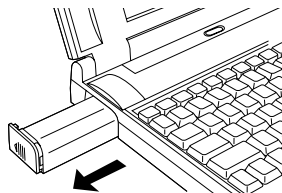
挿入口の奥にはバネがついていますので、バッテリーパックを奥へ少し押すようにしながら、ロックしてください。

お願い

力任せに押し込まないでください。また、本体を縦にした状態で、挿入しないでください。

取り外し方

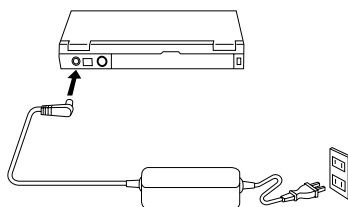
1. 本体の電源を切る。

2. バッテリーパックのフタを矢印の方向にスライドさせ、ロックを外す。

バッテリーパックが少し飛び出します。

3. バッテリーパックを引き出す。

充電のしかた

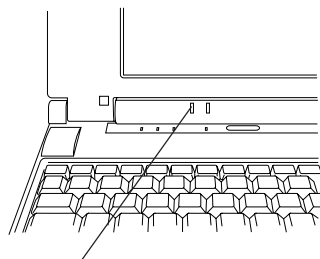
付属のバッテリーパックは、お買い上げ時には充電されていません。はじめて使用するときは、必ず充電してください。
充電は、コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態で行います。

1. AC アダプターを接続する。

充電が始まります。充電中は、BATT インジケーターがオレンジ色に点灯します。

2. 充電状態を確認する。

充電が済むと、BATT インジケーターが緑色に点灯します。(P.45)

◆**充電時間**（使用条件により異なります。）

電源スイッチが ON のとき　約 8 時間
電源スイッチが OFF のとき 約 2 時間

BATT インジケーター

参考

電源スイッチが OFF の状態でも、約 30 mW の電力を消費します。従って、バッテリーパックを満充電にしていても約１０日間で放電してしまいます。再度、充電してからお使いください。

バッテリーの消耗

バッテリーが消耗すると、BATT インジケーターが赤く点灯し、しばらくするとピーピーと音が鳴ります。その場合は、すぐに AC アダプターを接続してください。
すぐに AC アダプターを接続できないときは、動作中のプログラムを終了させて電源を切ってください。その後、AC アダプターを接続して、充電してからお使いください。

Windows の基本操作

Windows は MS-DOS の上で動いているソフトウェアです。Windows 上では、コマンドを使わなくても画面上でやりたいことを選択していくだけでいろいろな仕事をすることができます。ここでは、Windows の起動と終了の方法と、実際に操作をしていく上で基本となるダッシュボードの使い方や文字入力のしかたについて説明します。

Windows の操作方法についての詳細は、別冊の『Windows Quick ユーザーズガイド』あるいは、別売りの『Microsoft® Windows® Version3.1 マニュアルセット』を参照してください。

起動と終了

◆起動する

MS-DOS から Windows を起動するには、コマンドプロンプト（C：\ >）に続けて「WIN」と入力して [Enter] キーを押してください。
お買い上げ時には、電源を入れると自動的にWindowsが起動するように設定されています。

◆終了する

＜ Windows 画面の場合＞

ダッシュボードの「WIN 終了」をクリックするか、プログラムマネージャーの「アイコン」メニューを選択して、「Windows の終了」をクリックしてください。
確認のためのメッセージが表示されます。[Enter] キーを押すか、「OK」をクリックすると Windows は終了します。

＜ MS-DOS 画面の場合＞

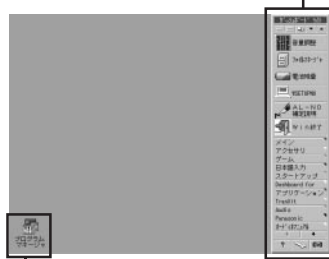
Windowsの「メイン」メニューから「MS-DOSプロンプト」を起動した場合には、MS-DOS と同じ画面になります。この場合は、「EXIT」と入力して [Enter] キーを押すと、Windows 画面に戻ります。
引き続いて、上記の＜ Windows 画面の場合＞の操作を行ってください。

ダッシュボードの使い方

◆ダッシュボードとは

ダッシュボード* は、Windows をすばやく操作するためのボタン、アイコンなどを画面上に集めたものです。ボタンのクリックで簡単にプログラムを起動させることができます。詳細は各項目のヘルプを参照してください。

*簡易メニューソフト Dashboard for Windows ver2.0 日本語版 Light version の略です。

ダッシュボード

プログラムマネージャーアイコン

コントロールメニューボックス

Windows コントロールメニューと、他のアプリケーションソフトへの切り替えメニューが表示されます。

クイックランチボタン

ボタンをクリックするだけでアプリケーションソフトが起動できます。本機ではあらかじめ、右のようなアプリケーションソフトが登録されていますが、使用状況に合わせて登録と削除を行うことができます。

オーディオマニュアル

オーディオアプリケーションの操作方法をライトファイル形式（.wri）で記載しています。

ヘルプボタン

クリックすると、カーソルが疑問符に変わります。次に、ヘルプを表示させたいダッシュボードウィンドウの項目をクリックします。ダブルクリックすると、ヘルプ項目の索引が表示されます。

カスタマイズボタン

クリックすると、カスタマイズ画面が表示され、ダッシュボードの各種の機能を設定できます。

ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞ ﾗｲﾄ

音量調整

ﾌｧｲﾙﾏﾈｰｼﾞｬ

電池残量

WSETUPNO

ＡＬ－ＮＯ
補足説明

Ｗｉｎ終了

メイン

アクセサリ

ゲーム

日本語入力

スタートアップ

Dashboard for

アプリケーション

TranXit

Audio

Panasonic

ｵｰﾃﾞｨｵﾏﾆｭｱﾙ

タイトルバー

タイトルを表示します。このバーをドラッグすると、ダッシュボードウィンドウ全体を移動できます。

最大表示ボタン

ダッシュボードウィンドウを拡大します。

アイコン化ボタン

ダッシュボードウィンドウがアイコンになります。

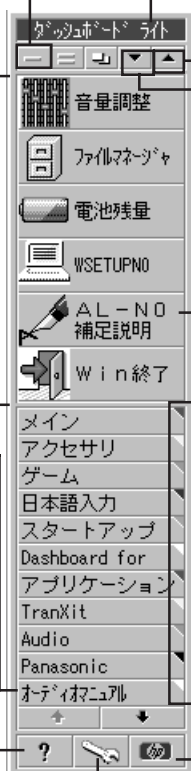
AL-N0 補足説明

必ずお読みください。
留意事項や参照となる情報が記載してあります。

グループメニュー

プログラムグループを示します。グループボタンをクリックすると、そのグループ内のプログラムのメニューが表示されます。メニューをクリックするだけでプログラムが起動できます。

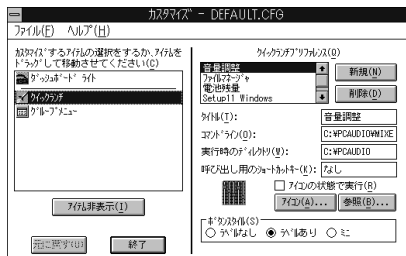
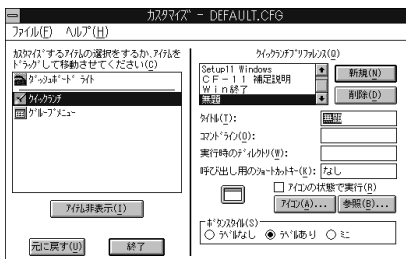
バージョン情報ボタン

ダッシュボードに関する情報を表示します。

◆ダッシュボードに登録する / 削除する

アプリケーションソフトやプログラムグループを新規に登録したり、必要のなくなったものは削除したり、用途に応じてダッシュボードのメニューを変更することができます。
ダッシュボードのカスタマイズボタンをクリックすると、右図のようなカスタマイズ画面が表示されます。登録や削除はこの画面で行います。

＜クイックランチボタンにアプリケーションソフトを登録する / 削除する＞

カスタマイズ画面の「クイックランチ」をクリックすると、クイックランチに登録されているすべてのアプリケーションソフトが表示されます。

登録

「新規」をクリックすると、右の画面が表示されます。登録したいアプリケーションソフトについて必要な項目を入力またはチェックします。

削除

タイトルの一覧の中から、削除したいタイトルにカーソルを合わせて、「削除」をクリックすると、クイックランチからアプリケーションソフトが削除されます。
「終了」をクリックすると、カスタマイズ画面が消えます。

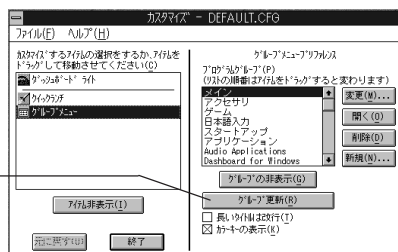
参考

- アプリケーションソフトの登録は、Windowsのファイルマネージャーまたはアプリケーションソフトの入っているウィンドウから、登録したいアプリケーションソフトのプログラムファイルをドラッグし、ダッシュボード上に持ってきて離すという操作でも簡単にできます。また、クイックランチボタンの配置を編集する場合は、アイコンをドラッグして並べ替えるだけでできます。
- 「呼び出し用のショートカットキー」を登録する場合は、キーを選択後、「終了」ボタンをクリックしてください。

<グループメニューにプログラムグループを登録する / 削除する>

カスタマイズ画面の「グループメニュー」をクリックすると、ダッシュボードのグループメニューに表示されるすべてのプログラムグループが表示されます。

新しいグループをプログラムマネージャーで登録した場合、このボタンをクリックするとダッシュボードにグループが追加されて表示されます。

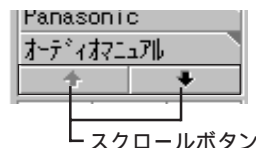
登録

「新規」をクリックすると、右の画面が表示されます。新しいグループ名とファイル名を入力します。「 OK」をクリックすると登録されます。

削除

削除したいプログラムグループにカーソルを合わせて、「削除」をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると削除されます。「終了」をクリックすると、カスタマイズ画面が消えます。

参考

- 登録されているプログラムグループが多くなると、スクロールボタンが表示されます。画面上に表示されていないプログラムグループを表示させるには、このボタンをクリックして、画面をスクロールさせてください。

スクロールボタン

- カスタマイズ画面の「ダッシュボードプリファレンス」の「メイン」を選ぶと、「タスクマネージャと置き換える」と「メニューとスクリーン上にアイコンを表示する」の項目が表示されますが、これらの項目は実行することができません。

文字入力のしかた

Windows上で文字を入力する場合には、英数入力モードとかな入力モードの２つのモードを切り替えることができます。

英数入力モード：キーボードに刻印されている英数字（NumLock有効）と記号を半角で入力。
かな入力モード：キーボードに刻印されているかな文字を半角カタカナで入力。

通常、Windowsを起動した直後は、英数入力モードになっています。[Ctrl] キーと [Shift] キーを押しながら [カタカナ/ひらがな] キーを押すと、２つのモードが切り替わります。

◆全角文字、ひらがな、かな記号、漢字を入力するには

Windows を起動したときの状態では、半角英数字（NumLock 有効）と記号、半角のカタカナだけが入力できます。
全角文字、ひらがな、かな記号、漢字を入力する場合は、[Alt] キーを押しながら [半角/全角] キーを押して、MS IME for Windows を起動してください。再度、[Alt] キーを押しながら [半角/全角] キーを押すと、MS IME for Windows が終了します。

ローマ字入力で入力する場合（キーボードの入力モード* が英数入力）

MS IME for Windowsを起動した直後はローマ字で入力できるようになっています。

入力例

（入力するキー）
M も　A ち　T か　U な　S と　I に　T か　A ち　➡

（画面表示）
まつした

かなで入力する場合（キーボードの入力モード* がかな入力）

[Ctrl] キー と [Shift] キーを押しながら [カタカナ／ひらがな] キーを押すとかなで入力できます。（MS-DOS 上の操作とは異なります。）

入力例

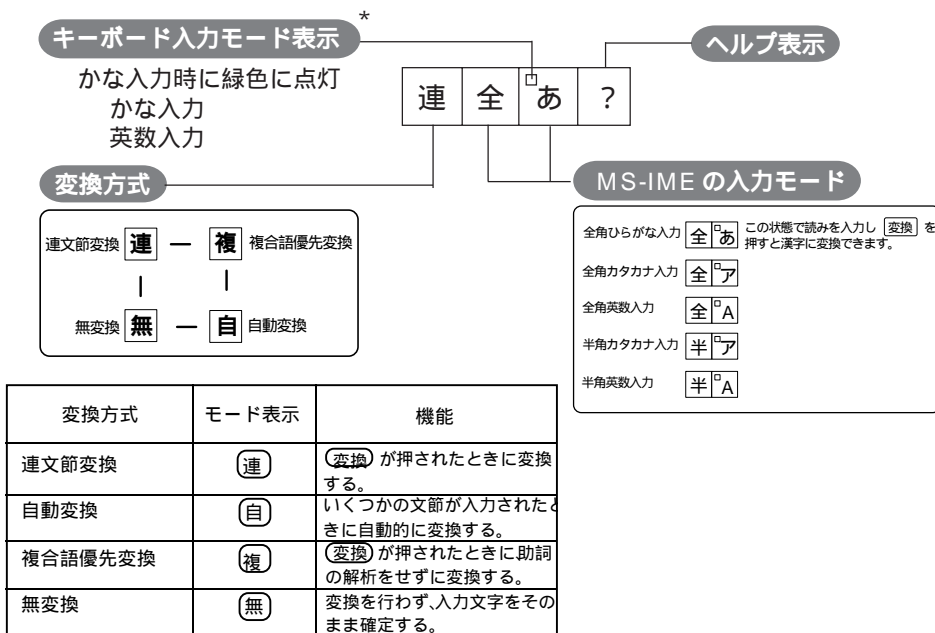
（入力するキー）
J ま　Z っ　D し　Q た　➡

（画面表示）
まつした

再度 [Ctrl] キーと [Shift] キーを押しながら [カタカナ／ひらがな] キーを押すと、ローマ字で入力できるようになります。

＜モード表示＞

MS IME for Windowsを起動すると、画面右下に以下のようなモード表示が現われます。

変換方式	モード表示	機能
連文節変換	連	変換 が押されたときに変換する。
自動変換	自	いくつかの文節が入力されたときに自動的に変換する。
複合語優先変換	複	変換 が押されたときに助詞の解析をせずに変換する。
無変換	無	変換を行わず､入力文字をそのまま確定する。

モード表示ボタン「連」「全」「あ」をクリックすると、それぞれのモードが切り替わります。

＜漢字に変換するには＞

MS IMEの入力モードが「全角ひらがな」(「全」「あ」)の状態で、読みを入力し、[変換]キーを押します。入力した文字が漢字まじりの文に変換されます。反転表示されている部分は、以下の表に示すキーを押すことによってさらに別の変換ができます。
変換された文字は、[Enter] キーを押すと確定されます。
変換方式が「連文節変換」(「連」)のときは、続けて次の文節を入力すると、それまでの入力文字が確定します。

キー	機能
変換	漢字に変換
F6	ひらがなに変換
F7	カタカナに変換
F8	半角に変換
F9	全角英数に変換
Enter	文字を確定

お願い

●表記方法が上記の例にあてはまらない場合があります。

MS IME が起動していない場合：" ¯ "は"˜"と表示されます。
MS IME が起動している場合　："¯"は"¯"と表示されます。

"＼"は"¥"と表示されます。

●以下のキーはキー入力では入力できません。コード入力で入力してください。

キートップ										
文字	"『"	"¢"	"ケ"	"』"	"＼"	"｜"	"£"	"々"	"¬"	"～"
シフトJISコード	8177	8191	8396	8178	815F	FA55	8192	8158	81CA	8160

参考

● MS IME for Windows で入力する文字は、以下に示すように、MS IME の入力モードだけでなくキーボードの入力モードにも影響されます。

例）A ち を押した場合

（　）：　画面のモード表示

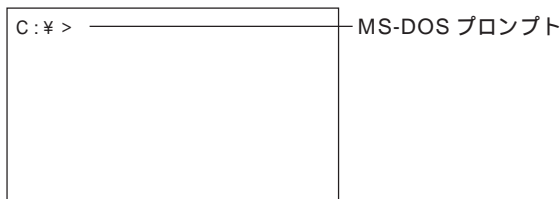
MS IME		キーボード入力モード	
入力方式	入力モード	英数入力	かな入力
ローマ字	英数	A（全 A，半 A）	チ（全 A，半 A）
	かな	あ（全 あ）	ち（全 あ）
	カナ	ア（全 ア，半 ア）	チ（全 ア，半 ア）
かな	英数	A（全 A，半 A）	チ（全 A，半 A）
	かな	A（全 あ）	ち（全 あ）
	カナ	A（全 ア，半 ア）	チ（全 ア，半 ア）

[Alt] を押しながら [カタカナ / ひらがな] を押すと交互に切り替わります。

[Ctrl] と [Shift] を押しながら [カタカナ / ひらがな] を押すと交互に切り替わります。

● MS IME for Windows の詳細は、
付属の『日本語入力ガイド＜ MS IME for Windows ＞』を参照してください。

MS-DOS の基本操作

Windows の「メイン」メニューから「MS-DOS プロンプト」を起動した場合、または Windows を終了した場合に、下図のような MS-DOS の画面が表示されます。

C:\＞ —— **MS-DOS プロンプト**

MS-DOSを使って何か仕事をするときには、どんな仕事をするのかという指示をコマンド（命令用の文字列）によって与えます。コマンドを実行するためには、MS-DOS プロンプト（C:\＞）が表示されている状態で、コマンドの文字列をキーボードから入力して［Enter］キーを押します。
ここでは、キーボードから文字を入力する方法について説明します。

MS-DOS の操作方法についての詳細は、別売りの『Microsoft® MS-DOS® Version 6.2/V マニュアルセット』を参照してください。

参考

●コマンドの書式

MS-DOSのコマンドは、次の書式で表します。なお、[　] 内の部分は省略できることを示します。　　　コマンド　[パラメーター]

●ファイル

ファイルとは関係のある情報の集まりのことです。プログラム、テキスト、データはいずれかのファイルに属します。それぞれのファイルには固有の名前を付けます。必要なデータはそのファイル名で参照します。

●ディレクトリー

ディレクトリーとはファイルの集まりのことです。ディレクトリーにも固有の名前を付けます。たくさんあるファイルをグループに分けて、個々のディレクトリーに登録することで管理がしやすくなります。

●ディスク

ファイルはディスク上に保存されます。保存するためには、ディスクに空き領域が必要です。また、十分な空き領域がないと動作しないプログラムもあります。不必要なファイルは削除して、空き領域を確保するようにしてください。

文字入力のしかた

起動したときの状態では、半角の英数字（NumLock有効）と記号だけが入力できます。キーボードから全角文字、ひらがな、カタカナ、かな記号、漢字を入力する場合には[Alt]キーを押しながら［半角／全角］キーを押して、MS IME（マイクロソフト日本語入力システム）を起動してください。
再度［Alt］キーを押しながら［半角／全角］キーを押すと、MS IMEが終了します。

キー表面の文字や記号の表示方法を [A ち] と [{ [「 。] を例にとって簡単に説明します。

MS IMEが起動していないとき

<キーの左側の文字が入力できる>

英大文字

Caps Lookが無効のとき：
［Shift］キーを押しながら
そのキーを押す

Caps Lookが有効のとき：
そのキーだけを押す

英小文字

Caps Lookが無効のとき：
そのキーだけを押す

Caps Lookが有効のとき：
［Shift］キーを押しながら
そのキーを押す

英記号

［Shift］キーを押しながら
そのキーを押す
そのキーだけを押す

**MS IMEが起動していて
入力方式がかな入力のとき**

**＊かな入力への切り替えは
[Alt] と [カタカナ ひらがな ローマ字] を押す。**

<キーの右側の文字が入力できる>

ひらがな

そのキーだけを押す
（状態表示（画面右下の表示）は「かな」）

カタカナ

そのキーだけを押す
（状態表示（画面右下の表示）は「カナ」）

かな記号

［Shift］キーを押しながら、
そのキーを押す

そのキーだけを押す

カードのセット

使用できるカードは、RAM モジュールと PC（PCMCIA）カードの２種類です。それぞれ専用のスロットにセットします。

◆セット／取り出しを行う前に

1. データを保存し、Windows を終了する。
2. [Fn] キーを押しながら電源スイッチを押して、電源を切る。(P.47)
3. AC アダプターを取り外す。
4. (RAM モジュールのセット／取り出しを行うときのみ)
   バッテリーパックを取り外す。(P.24)

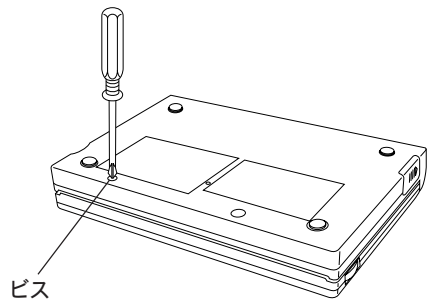
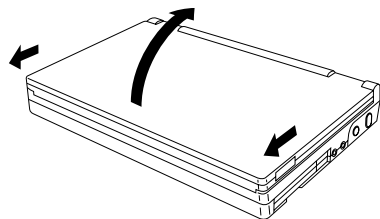
RAM モジュールのセット／取り出し方法

本機には、標準で 16M バイトの RAM モジュールを増設してあります。

◆セットのしかた／取り出し方

1. 本体裏面のネジを取り外す。

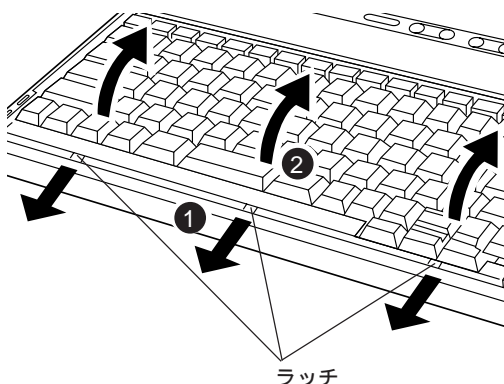
本体を裏返し、プラスドライバーでネジ（１か所）を取り外します。

ビス

2. ディスプレイを開ける。

3. キーボードパネルを開ける。

❶ラッチが３か所にあります。矢印の方向に押し開いて、ラッチの押さえを外しながら、
❷図のようにキーボードパネルを開けます。

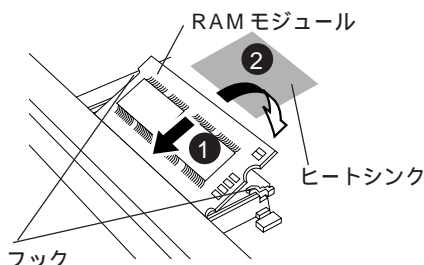
お願い

キーボードパネルを、ディスプレイ側に無理に押し倒さないでください。パネルの支軸が破損するおそれがあります。

ラッチ

4. RAM モジュールをセットする／取り出す。

セットする

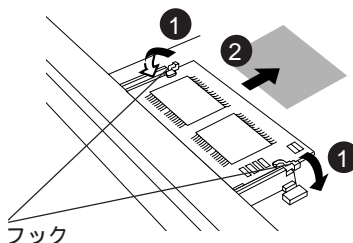
❶ ソケットのミゾに合わせて、斜め上方からしっかり差し込みます。
❷ 矢印の方向に軽く押して、はめ込みます。フックがかかり、ロックされていることを確認してください。

RAM モジュール
ヒートシンク
フック

お願い

●向きに注意して差し込んでください。向きを間違うとうまく入りません。
●ヒートシンク（CPUブロックの放熱板）は高温になっています。手を触れないようにしてください。

取り出す

❶ 両側のフックを開いて、ロックを外します。
❷ 矢印の方向に、引き抜きます。

フック

5. キーボードパネルを閉じる。

３か所のラッチがかかるように、しっかりと閉じてください。

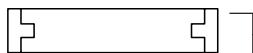
6. 本体裏面のネジを締める。

ディスプレイを閉じて本体を裏返し、プラスドライバーでネジを締めます。

PC（PCMCIA）カード

PC (PCMCIA) カードとは、JEIDA規格に準拠したカードのことをいいます。モデムカード、IC メモリーカード、LAN カード、サウンドカードおよび 1.8 インチ HDD などがあります。

PC カードスロット

↕5mm
↕5mm

タイプ I とタイプ II（厚さが 5mm を越えないもの）は、上段スロット／下段スロットのどちらでもセットすることができます。また、2 段両方にセットすることもできます。

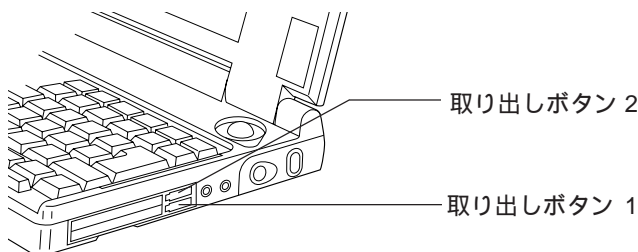
↕5mm
↕5mm

タイプ III（1.8 インチ HDD など）は、下段スロットにセットしてください。

お願い

ご使用の前に、必ず、PC カードの消費電流を確認してください。PC カードスロットの許容電流を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
許容電流については、「本体仕様」（P.82）を参照してください。

◆セットのしかた／取り出し方

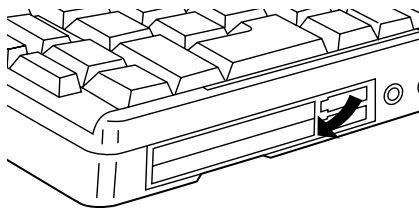
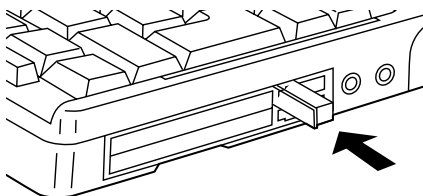
下段のカードのセット／取り出しには、取り出しボタン 1 を、
上段のカードのセット／取り出しには、取り出しボタン 2 を使います。

取り出しボタン 2

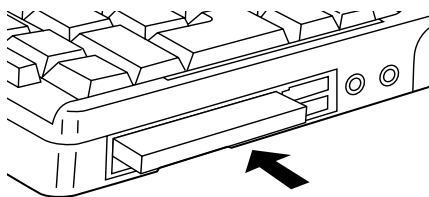
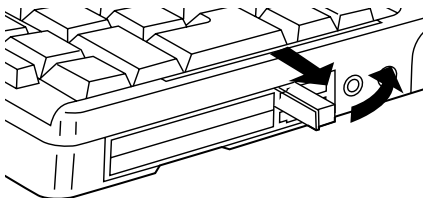
取り出しボタン 1

以降に、セットのしかたと取り出し方について説明します。

1. カードを取り出す。

ご購入時には、ダミーカード*がセットされています。PC カードをセットするときは、まず、ダミーカードを取り出してください。

❶ 取り出しボタンの折れ曲がり部分を伸ばす。

❷ 取り出しボタンを押す。
カードが少し出てきますので、取り出してください。

2. カードをセットする。

❶ カードを PC カードスロットにしっかりと差し込む。
取り出しボタンが飛び出ます。

❷ 取り出しボタンを完全に引き出してから、折り曲げる。

お願い

＊ダミーカードとは、ほこりや異物が入らないように、仮にセットしておくカードのことです。PC カードをセットしないときは、必ず、ダミーカードをセットしておいてください。

周辺機器の接続

接続および取り外しの前に、必ず本体と機器の電源を切ってください。接続後は、しっかりと接続されていることを確認してください。

マウス／外部キーボードコネクター
IBM PS/2 タイプのマウス、または外部キーボードを接続することができます。

シリアルポート
シリアルマウスやモデムを接続します。

Lock 穴
盗難防止用のキー（Kensington 社製）を取り付けます。

赤外線通信ポート
赤外線通信を行うときに使用します。

パラレルポート
プリンターなどを接続します。

DC-IN Jack (DC IN15V)
付属の AC アダプターの DC プラグを接続します。

VGA コネクター
VGA モニターケーブルを接続します。
S-VGA モードによっては､ドライバープログラムが必要となります。
LCDモニターを閉じて外部モニターを使用するときは「SETVIDEO」または「SETUPN0」プログラムを使って外部モニターのみの使用モードに切り替えてください。

外部 FDD コネクター
付属の外付けフロッピーディスクドライブを接続します。

ヘッドホン端子（PHONES）

市販のオーディオ用モノラルヘッドホン、アンプ付きスピーカーなどを接続します。ステレオヘッドホンやステレオ用のスピーカーなどを接続すると、左側からだけ音声が出力されます。
ヘッドホンまたはスピーカーを接続している場合は、内蔵スピーカーから音声は出力されません。

マイクロホン端子（MIC）

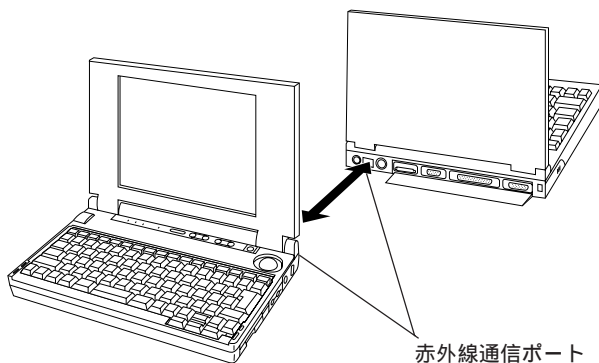
市販のモノラル・ダイナミックマイクロホンのミニジャックタイプを接続します。

お願い

●各コネクターへプラグが接続されている状態のときは、ディスプレイを後ろまでいっぱいに開かないでください。ディスプレイ背面とプラグが接触して、損傷の原因となります。
●後面のカバーは開き過ぎないように（水平位置以上は開けないように）してください。取り付け部が破損するおそれがあります。
●モノラル・ダイナミックマイクロホン以外のマイクロホンをご使用になると、音が入力できなかったり、故障の原因になる場合があります。

他の機器とのデータ通信

赤外線通信機能

本機には赤外線通信ポートが装備されています。赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機能を持った他のコンピューターと、ケーブルを接続することなく通信することができます。
赤外線通信を行う場合は、２つのコンピューターの赤外線通信ポートが真正面に向き合うように置いてください。距離は １ｍ以内で使用してください。20 ～50 cmの範囲内で使用すると、最も安定して通信できます。
また、互いのコンピューター上で赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく必要があります。（P.56 ）

赤外線通信ポート

お願い

- 互いの赤外線通信ポートが真正面に向き合っていないとうまく通信できません。
- 赤外線通信ポート間の距離が離れすぎていたり、間に遮断物があったりすると、うまく通信できないことがあります。
- テレビやビデオ、ワイヤレス・ヘッドフォン、白熱灯、ストープの発熱部、直射日光などがあると、うまく通信できないことがあります。

TranXit ™ for Windowsを使って通信する

本機にはTranXit ™ for Windows（以降TranXit) が組み込まれています。TranXitを使用すると、２台のコンピューターの間でデータの同期化*や転送を行うことができます。また、一方のコンピューターから他方のコンピューターにファイルやディレクトリーをコピーしたり、一方のコンピューターから、他方のコンピューター上にあるファイルやディレクトリーの作成・コピー・移動・削除などを実行することもできます。
TranXitを使って通信するためには、両方のコンピューターにTranXitが組み込まれている必要があります。
TranXitを起動するには、Windowsを起動して、「TranXit」の「TranXit」をダブルクリックしてください。以下のような画面が表示されます。

TranXitの使用方法についての詳細は、本書の「TranXit ™ for Windowsユーザーズガイド」(P. 83 ）をご覧ください。

参考

＊データの同期化とは
２台のコンピューターのファイルやデータの状況を、最新バージョンの方に合わせて、同じにすることをいいます。つまり、バージョンの新しいものを古いものに上書きして、すべてのデータを最新のバージョンにします。例えば、出張などに本機を持っていくので、ファイルやディレクトリーのバージョンをデスクトップ・コンピューター上のものと合わせたいなどという場合に便利です。

お願い

TranXitを使って通信する場合、必ず、それぞれのコンピューターに別の名前を割り当てる必要があります。AL-N0シリーズは、お買い上げ時には、どのコンピューターにも同じ名前が割り当てられています。AL-N0シリーズのコンピューター間で通信を行う場合は、まず、オプションメニューの「コンピューター名」で、名前を変更してください。

バッテリーの上手な使い方

バッテリーの種類

●バッテリーパック
本体内蔵用の充電式のバッテリーパックです。
AC アダプターを使わないときは、このバッテリーから電源が供給されます。
●クロックバッテリー
時計を動かし、初期環境などの設定内容を保持するためのバッテリーで、本体に内蔵されています。

使用温度についての注意

●本体は、使用環境温度５～３５℃の範囲で操作してください。
使用環境温度が低い場合、バッテリーの駆動時間が短くなります。
●高温、または低温の状態で充電すると、バッテリーの充電容量が低下します。
●通常の放電時に多少あたたかくなることがありますが、異常ではありません。
●バッテリーの性能を維持するために、バッテリーパックの温度が５～４５℃の範囲外の場合は、充電が行われません。
範囲外なのに充電しようとした場合は、BATT インジケーターが５秒間赤色に点滅して、範囲外であることを知らせます。

例えば以下のようなとき、充電が始まりません。
・充電中にバッテリーの温度が上記の範囲より上がったときに、ＡＣアダプターを抜き、再び充電しようとした場合

このようなときは、バッテリーパックを取り外し、温度を範囲内に戻してから、再度、充電を始めてください。

充電についての注意

●出荷時には、バッテリーパックは充電されていません。ご使用前に、必ず充電してください。ＡＣアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。
●充電中に、ACアダプターを抜くことは避けてください。充電が完了してから抜くようにしてください。
●他のコンピューター内や他の充電器では充電しないでください。
●充電中、BATT インジケーターが消灯した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、AC アダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、「ご相談窓口」にご相談ください。

●バッテリーパックを長時間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
●バッテリーパックの着脱を何度も繰り返し、その度に充電を行うと、過充電となり熱を発生します。バッテリーパックの劣化の原因となりますのでやめてください。
●バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。

取り扱い上のお願い

「安全上のご注意」（P.5～6 ）に記載の注意事項をよく読み、取り扱ってください。
加えて、以下の点にもご注意ください。

●交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお勧めします。
●水や海水などをかけないでください。端子がさびる原因となります。
●端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。端子が汚れたときは、乾いた布、綿棒などでふいてください。
●万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服に付いた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

バッテリー残量の確認

バッテリーの残量を確認する方法には、次の 2 とおりがあります。

・BATT インジケーターで確認する

・３つのインジケーターで確認する　(CapsLK/NumLK/ScrLK)

◆ BATT インジケーターで確認する

BATT インジケーターの状態	充電状態
オレンジ色に点灯 **緑色に点灯** **赤色に点灯**	**充電中** **充電完了** **バッテリー残量なし** 充電が必要です。約 7 分後*にアラームが鳴ります。早急に AC アダプターを接続してください。 AC アダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windows も終了して電源スイッチを切ってください。　　　　（*使用条件により異なります。）
赤色に点滅	**充電できない** バッテリーパックの温度が5〜45°Cの範囲外にあるため、充電できません。いったん、バッテリーパックを取り外し、充電可能な温度に戻してから、再度、取り付けてください。

◆3つのインジケーターで確認する

[Fn] キーを押しながら [F9] キーを押して手を離すと、しばらくの間3つのインジケーター (CapsLK/NumLK/ScrLK) が点灯し、バッテリーの残量を表示します。
Windowsの動作中は、ダッシュボードの「電池残量」をクリックして画面で見ることもできます。

3つのインジケーターの状態			残量の目安
CapsLK	NumLK	ScrLK	
■	■	■	61-100%
■	■	□	31- 60%
■	□	□	11- 30%
□	□	□	0- 10%

・"■"は、緑色点灯状態を表わします。
・表示される残量はあくまでも目安です。

お願い

・ACアダプター使用中は、残量を認識できず、3つのインジケーターすべてが点滅します。
・バッテリーパックを交換したり、コンピューターを起動した直後 (MS-DOSが起動するまで) は、バッテリー残量を認識できなかったり、正確に表示できないことがあります。そのような場合は、バッテリーを満充電状態にする、またはバッテリーインジケーターが赤色に点灯するまで放電すると、残量が認識できるようになります。

キーボードの操作

キーコンビネーション

[Fn] キーを押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。

[F 7]　SETUPN0 プログラムの「省電力設定」で「ホットキーハイバーネーション」を有効に設定している場合に、ハイバーネーション機能＊1が働きます。
SETUPN0 プログラムの「省電力設定」で「パワースイッチ」を、「ON-OFF」や「サスペンド」に設定していても、ハイバーネーション機能が働きます。

[F 9]　バッテリーの充電状況が３つの LED（CapsLK、NumLK、ScrLK）インジケーターで表示されます。（詳しくは「バッテリー残量の確認」(P.46) を参照してください。）

[F10]　省電力のため、ハードディスクドライブモーター、LCD、バックライトの電源を切ります。任意のキーを押すと、LCDとバックライトの電源が入ります。ハードディスクへのアクセスがあれば、ハードディスクドライブモーターの電源が入ります。
通信ソフトをご使用のときには、通信エラーが起こる場合がありますので、注意してください。

Power スイッチ　サスペンド／リジューム機能＊2またはハイバーネーション機能が有効であっても、サスペンドやハイバーネーションせずに電源を切ります。使用中のデータを保存し、アプリケーションや Windows を終了した状態で使ってください。

[PrtSc]　画面に表示されているデータを、印刷するためにプリンターに送ります。[Alt] キーを押しながら押した場合は、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

参考

＊1 ハイバーネーション機能
ハードディスクに電源を切る前の状態が保存され、次回電源を入れたときに、すぐに切る前の状態に戻ることができる便利な機能です。

＊2 サスペンド／リジューム機能
ハイバーネーション機能とほぼ同じ役割をします。ただし、ハイバーネーション機能では、電源を切る前の動作状態をハードディスクに保存しますが、サスペンド／リジューム機能ではメモリーに保存するだけです。従って、ACアダプターもしくはバッテリーパックのどちらかが装着されていないと、この機能は働きません。
詳しくは、「省電力設定」(P.60) を参照してください。

特殊キー

[Esc]
アプリケーションソフトによって機能が異なります。

[ScrLK]
アプリケーションソフトによって機能が異なります。

[NumLK]
[Shift] キーを押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り替えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。
NumLK インジケーター点灯時：テンキー有効
この状態で［Shift］キーを押しながら入力すると、カーソルや画面の移動キーとして使用できます。
（この状態で［Fn］キーを押しながら入力すると、テンキー無効になる。）
NumLK インジケーター消灯時：テンキー無効
この状態で［Fn］キーを押しながら入力すると、カーソルや画面の移動キーとして使用できます。
（この状態で［Fn］キーと［Shift］キーを押しながら入力すると、テンキーが有効になる。）

[Pause/Break]
プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。[Ctrl] キーを押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。

[CapsLock/ 英数]
英数字入力になります。[Shift] キーを押しながら押した場合は、CapsLock 状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
CapsLock 状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、[Shift] キーを押しながらアルファベットキーを押すと、小文字入力になります。

[Enter]
コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。

[Shift]
通常、このキーとともにアルファベットキーが押されると、大文字入力になります。また、このキーとともに数字キーか特殊キーが押されると、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。

[Ctrl]
他のキーと同時に押した場合は、特殊機能が有効になります。他の特殊キーと同時に押した場合は、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

[Alt]
他のキーと同時に押した場合は、特殊機能が有効になります。他の特殊キーと同時に押した場合は、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

環境の設定

初期環境を再インストールする

MS-DOS や Windows などは、あらかじめハードディスクにインストールされていますが、ハードディスクが壊れたり、内容を消去してしまった場合、以下の手順に従って、再インストールすることができます。
再インストールの際には、フロッピーディスクを使用しますので、あらかじめ、外付けフロッピーディスクドライブを取り付けておいてください。（P.21）また、はじめて起動したときに作成したインストールディスク（28 枚）を使用しますので、準備してください。

お願い

- ●再インストールを実行すると、現在のハードディスクの内容はすべて消去されますので、ご注意ください。
- ●再インストール中は、電源を切ったりサスペンド状態にならないようにしてください。

1. ＜MS-DOS のインストール＞

あらかじめ作成しておいた「MS-DOS DISK1」をフロッピーディスクドライブにセットし、フロッピーディスクからシステムを起動します。
画面に表示されるメッセージに従って、フロッピーディスクを入れ替えながらインストールします。
お買い上げ時の設定にするには、各項目を次のように設定してください。

項目	設定値
キーボード	106 日本語キーボード
組み込み先　DIRECTORY	C : ￥DOS
プリンタの設定	ESC ／ P プリンタ
日本語入力システムの設定	はい
入力方式	ローマ字
全角／半角	全角
変換方式	連文節変換
辞書の学習	学習する
コード入力方式	シフト JIS
入力位置	システムライン

2. ＜ Windows のインストール＞

MS-DOS のインストールが終了したら、あらかじめ作成しておいた「Windows DISK1」をフロッピーディスクドライブにセットし、MS-DOSのプロンプト（A:¥＞）に続いて以下のように入力します。

SETUP　[Enter]

画面に表示されるメッセージに従って、フロッピーディスクを入れ替えながらインストールします。
お買い上げ時の設定にするには、各項目を以下のように設定してください。

項目	設定値
コンピュータ＊	MS-DOS System with APM
ディスプレイ＊	CHIPS 655DGX 640×480 256色 16ドット
マウス	マイクロソフトマウス
キーボードの種類	106日本語キーボード
言語	日本語
コードページ	日本語（コードページ932）
ネットワーク	ネットワークなし
日本語入力システム	MS IME
スワップファイル	一時（8192KB）
32 bit dis access	しない
プリンタ	EPSON VP-1700

＊コンピュータ、ディスプレイは、手順7で上記の値に設定し直します。

3. ＜ ESS のインストール＞

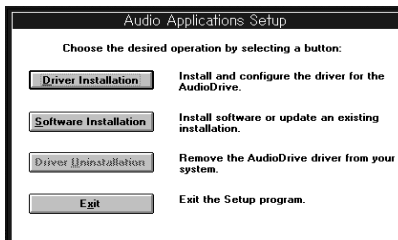
MS-DOS のプロンプト（C:¥＞）に続いて以下のように入力し、Windows を起動します。

WIN　[Enter]

あらかじめ作成しておいた「ESS AUDIO DRIVER ディスク 1」をフロッピーディスクドライブにセットし、プログラムマネージャーの「メイン」グループから「ファイルマネージャ」をダブルクリックします。「ファイルマネージャ」でAドライブを選択し、「SETUP.EXE」をダブルクリックします。インストールを行う場合は「Continue」を、やめる場合は「Exit」を選択します。
「Continue」を選択すると、以下の画面が表示されます。

Audio Applications Setup

Choose the desired operation by selecting a button:

Driver Installation	Install and configure the driver for the AudioDrive.
Software Installation	Install software or update an existing installation.
Driver Uninstallation	Remove the AudioDrive driver from your system.
Exit	Exit the Setup program.

(1) Driver Installation をダブルクリックし、ドライバーをインストールします。
(2) Software Installation をダブルクリックし、オーディオアプリケーションソフトをインストールします。
(3) Exit をダブルクリックし、終了します。

4. <ダッシュボードのインストール>

MS-DOS のプロンプト（C:￥＞）に続いて以下のように入力し、Windows を起動します。

WIN　[Enter]

あらかじめ作成しておいた「DASHBOARD LIGHT DISK」をフロッピーディスクドライブにセットし、プログラムマネージャーの「メイン」グループから「ファイルマネージャ」をダブルクリックします。「ファイルマネージャ」で A ドライブを選択し、「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
画面に表示されるメッセージに従って、フロッピーディスクを入れ替えながらインストールします。

5. < TranXit のインストール>

MS-DOS のプロンプト（C:￥＞）に続いて以下のように入力し、Windows を起動します。

WIN　[Enter]

あらかじめ作成しておいた「TRANXIT ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、プログラムマネージャーの「メイン」グループから「ファイルマネージャ」をダブルクリックします。「ファイルマネージャ」で A ドライブを選択し、「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
画面に表示されるメッセージに従って、フロッピーディスクを入れ替えながらインストールします。

6. <ビデオドライバーのインストール>

あらかじめ作成しておいた「CHIPS VIDEO DRIVER DISK」をフロッピーディスクドライブにセットし、MS-DOSのプロンプト（C:￥＞）に続いて以下のように入力します。

A：[Enter]
SETUP [Enter]

画面に表示されるメッセージに従ってインストールします。
以下の項目を選択してインストールします。

インストールするドライバー	Windows 3.1（All resolutions）
導入先	C：￥WINDOWS

7. <ユーティリティープログラムのインストール>

(1) あらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、MS-DOSのプロンプト（C:￥＞）に続いて以下のように入力します。

A:￥REST [Enter]

画面に表示されるメッセージに従って、フロッピーディスクを入れ替えながらインストールします。

(2) MS-DOSのプロンプト（C:￥＞）に続いて以下のように入力し、Windowsの設定を修正します。

CD WINDOWS [Enter]
SETUP [Enter]

以下の項目を設定します。

コンピュータ	MS-DOS System with APM
ディスプレイ	CHIPS 655DGX 640×480 256色16ドット

(3) MS-DOSのプロンプト（C:￥＞）に続いて以下のように入力し、メモリーを効率よく使用できるようにします。

MEMMAKER [Enter]

画面に表示されるメッセージに従って操作します。

動作環境を設定する

ユーティリティープログラムSETUPN0でコンピューターの動作環境を設定します。以下の環境設定ができます。

＜システム設定＞

現在の時刻や日付、シリアルポートやパラレルポートのI/Oアドレス、IrDA（赤外線通信）ポートのI/Oアドレス、データ転送方向、使用するマウスのタイプなどの設定ができます。

＜ビデオ設定＞

外部モニターを接続している時には、外部モニターと内部LCDとの画面表示の切り替えができます。また、ディスプレイのスクリーンサイズを設定できます。

＜セキュリティー設定＞

データ等を保護するためのパスワード機能の有無やコンピューター起動時の起動ドライブなどを設定できます。

＜省電力設定＞

無駄に電気を消費しないようにコンピューターを制御します。

参考

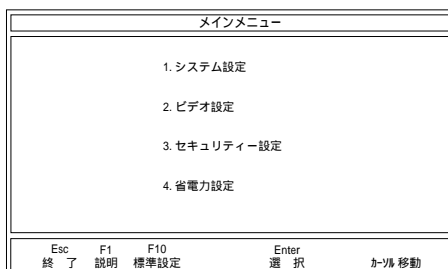
標準設定：全項目を標準の設定にします。
保存＆再起動：設定された内容を保存しシステムを再起動します。

◆ *SETUPN0 プログラムを起動する*

SETUPN0 プログラムは、C：￥DOS というディレクトリーにあります。
AUTOEXEC.BAT内でそのディレクトリーのパスが設定されていますので、以下のように入力することによって実行できます。

SETUPN0

SETUPN0 プログラムが実行されると、以下のメインメニュー画面が表示されます。

メインメニュー
1. システム設定 2. ビデオ設定 3. セキュリティー設定 4. 省電力設定
Esc 終　了　F1 説明　F10 標準設定　Enter 選　択　↑↓ カーソル 移動

各キーの機能を以下に説明します。

[ESC] SETUPN0 プログラムを終了します。設定を変更した場合、設定を登録して再起動するかどうかのメッセージが表示されます。設定を変更して再起動する場合は [Y] キーを、設定を取り消して MS-DOS に戻る場合は [N] キーを押します。

[F1] ヘルプを表示します。

[F10] SETUPN0 プログラムで設定できる動作環境を標準の状態に戻します。すべての設定を標準にしていいかどうかのメッセージが表示されます。すべての設定を標準にする場合は [Y] キーを、取り消す場合は [N] キーを押します。

[Enter] 各設定のサブメニュー画面を開き、設定を変更します。

[↑] [↓] カーソルを上下に移動させます。

参考

- サブメニューは、1 から 4 までの数字を入力して直接開くこともできます。
- Windows 上で、ユーティリティープログラム WSETUPN0 を使うこともできます。このユーティリティーはSETUPN0 プログラムとは、多少ユーザーインターフェースが異なります。WSETUPN0 を起動するためには、ダッシュボード上から「WSETUPN0」のアイコンを選択してください。

WSETUPN0

お願い

WSETUPN0 でシステムパスワードを設定（有効または変更）して保存＆再起動した直後は起動時のパスワードの入力を行う必要はありません。電源のON/OFFやリセットを行ったり、サスペンド／リジューム機能を使用した場合にパスワードの入力が必要になります。
上記 SETUPN0 の省電力設定はDOS コマンドのPOWER.EXE と同様の機能を持っていますので、POWER.EXEは使用しないでください。POWER.EXE をご使用になると予期せぬ不具合が生じることがあります。

◆システム設定

「システム設定」を選択すると、以下のサブメニュー画面が表示されます。

システム設定

1. 時間（時:分:秒）：	12:40:28
2. 日時（年-月-日）：	1995-06-10
3. マウス：	内蔵トラックボール/マウスポート
4. シリアルポート：	3F8（IRQ4）
5. IrDAポート：	2F8（IRQ3）
6. アドレス（パラレルポート）：	378
7. データ転送方向（パラレルポート）：	双方向

物理ハードディスクサイズ	xxx MB
メモリーサイズ	7808 KB

Esc	F1	F2	F10	Enter	↑↓
取　消	説　明	設　定	標準設定	選　択	カーソル 移動

各キーの機能を以下に説明します。

[ESC]　変更した設定の内容を取り消し、元の状態に戻します。設定を変更している場合には、新しい設定を取り消していいかどうかのメッセージが表示されます。
取り消す場合は、[Y] キーを押すと、設定を取り消してメインメニュー画面に戻ります。取り消さない場合は、[N] キーを押します。

[F1]　ヘルプメニューを表示します。

[F2]　現在表示されている設定を一時的に保存して、メインメニュー画面に戻ります。

[F10]　システム設定の内容を標準の状態に戻します。設定を標準にしていいかどうかのメッセージが表示されます。「システム設定」の各項目の設定を標準にする場合は [Y] キーを、取り消す場合は [N] キーを押します。

[↑] [↓]　カーソルを上下に移動させます。

参考

●物理ハードディスク容量とメモリーサイズは、画面の下に表示されます。
●物理ハードディスク容量の単位は、1M バイト =10^6 バイトです。
●メモリーサイズの単位は、1K バイト =1024 バイトです。
●画面内の各項目間でのカーソルの移動は、1から7までの数字を入力することによって直接行うこともできます。

各項目にカーソルを合わせて［Enter］キーを押すと、選択できる項目が表示されます。各項目の設定方法を以下に説明します。

1. 時間

時：分：秒の形式で、時刻を0から9までの数字を使って設定します。

2. 日時

年-月-日の形式で、日付を0から9までの数字を使って設定します。

3. マウス

使いたいマウスの初期設定を行います。「内蔵トラックボール／マウスポート」か「シリアルポート」かを指定します。
「内蔵トラックボール／マウスポート」は、内蔵のトラックボールかPS/2タイプの外部マウスを使用する場合で、「シリアルポート」は、マウスをシリアルポートに接続して使用する場合です。標準設定は「内蔵トラックボール／マウスポート」です。
「シリアルポート」を選択する場合は、「4. シリアルポート」の設定を「3F8（IRQ4)」または「2F8（IRQ3)」にしてください。

4. シリアルポート

シリアルポートのアドレスを割り当てます。
「3F8（IRQ4)」、「2F8（IRQ3)」、「OFF」から選択します。標準設定は「3F8（IRQ4)」です。

5.IrDA ポート

赤外線通信ポートのアドレスを割り当てます。
「3F8（IRQ4)」、「2F8（IRQ3)」、「OFF」から選択します。標準設定は「2F8（IRQ3)」です。

6. アドレス（パラレルポート）

パラレルポートのアドレスを割り当てます。
「378」、「3BC」、「OFF」から選択します。標準設定は「378」です。

7. データ転送方向（パラレルポート）

パラレルポートのデータ転送方向を割り当てます。
「双方向」、「単方向」、「EPP」、「ECP」から選択します。標準設定は「双方向」です。
また、「EPP」、「ECP」は、「アドレス（パラレルポート）」の設定が「378」のときのみ、選択可能です。

◆ビデオ設定

「ビデオ設定」を指定すると、以下のサブメニュー画面が表示されます。

ビデオ設定

1. ディスプレイ：　外部モニター

2. スクリーンサイズ：　通常表示

Esc	F1	F2	F10	Enter	↑↓
取消	説明	設定	標準設定	選択	カーソル移動

参考

キー操作は、「システム設定」の場合と同じです。

各項目の設定方法を以下に説明します。

1. ディスプレイ

起動時に使用するディスプレイを指定します。

「内部LCD」、「外部モニター」、「同時表示」の中から選択します。

標準設定は「外部モニター」です。

内部LCDを使用する場合、「内部LCD」を指定します。外部モニターを使用する場合、「外部モニター」を指定します。内部LCDと外部モニターの両方を使用する場合、「同時表示」を指定します。

参考

●起動時に外部モニターが接続されていない場合は、「ディスプレイ」が「外部モニター」に設定されていても、内部LCDに情報を出力します。

2. スクリーンサイズ
（LCD英語テキストモード時の設定）

LCDモードの画面の大きさを指定します。「拡張サイズ」（19ドット/テキスト）か「通常表示」（16ドット/テキスト）かを指定します。標準設定は「通常表示」です。

◆セキュリティー設定

「セキュリティー設定」を指定すると、以下のサブメニュー画面が表示されます。

```
                    セキュリティー設定
  1. システムパスワード：        無効
  2. 起動ドライブ：              フロッピーディスク

  Esc    F1    F2     F10      Enter      ↑↓
  取 消  説 明  設 定  標準設定  選 択  カーソル移動
```

参考

キー操作は、「システム設定」の場合と同じです。
システムパスワードの設定は［F10］キーで標準設定しても変更されません。

1. システムパスワード

コンピューターを起動する際のパスワードを設定します。システムパスワード機能を「無効」、「有効」、「変更」のいずれかに設定します。出荷時は「無効」に設定されています。
また、システムパスワードが登録されていない場合、「変更」項目は表示されません。

2. 起動ドライブ

どのドライブに入っているシステムを使って起動するかを指定します。「フロッピーディスク」か「ハードディスク」を設定します。標準設定は「フロッピーディスク」です。

＜パスワードの登録と変更の手順＞

システムパスワードの項目で「変更」または「有効」を選択し、[F2] キーで設定した場合、以下の手順に従って、パスワードを登録してください。

1. 以下のメッセージが表示されます。

現在のシステムパスワードを入力して ENTER を押してください：

現在登録されているパスワードを入力します。このメッセージは、現在パスワードが登録されている場合のみ表示されます。

2. 次のメッセージが表示されます。

新しいシステムパスワードを入力して ENTER を押してください：

7 文字以内のパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

お願い

コントロールキー、カーソルキー、特殊キー、ファンクションキー、タブキー、スペースキー、バックスペースキーは、パスワードとして使用できません。

3. 次のメッセージが表示されます。

再度システムパスワードを入力して ENTER を押してください：

手順 2 で入力したパスワードを再度、入力します。パスワードが合致すれば、SETUPN0 のメインメニュー画面が再び表示されます。
再度入力したパスワードが最初のパスワードと異なっていた場合、次のメッセージが表示されます。

パスワードが一致しません.
何かキーを押してください.

任意のキーを押すと、手順 2 のメッセージが表示されます。もう一度操作してください。ただし、パスワードを 3 回間違うと、パスワードが不完全とみなされ、以下のメッセージが表示されます。

システムパスワードは変更できません.
何かキーを押してください.

任意のキーを押すと、メインメニュー画面に戻ります。

お願い

設定したパスワードは、手帳などにメモしておくことをお勧めします。
また、入力の際は、MS-IME などの日本語入力を終了してから入力してください。

◆省電力設定

＜サスペンド／リジューム機能とは＞

電源を切った後、再度電源を入れたときに、電源が切れる前の状態に戻すことができる便利な機能です。この機能により、中断した操作をすぐに再開することができます。
ただし、バッテリーパックもしくはACアダプターのどちらかが装着されていないと、この機能は働きません。

＜ハイバーネーション機能とは＞

電源を切る前の状態がハードディスクに保存され、次回、電源を入れたときに、切る前の状態にすぐに戻ることができる機能です。
サスペンド／リジューム機能との違いは、メモリー上のデータが、いったんハードディスクに保存されることです。電源の供給がなくてもデータを保持することができるので、ハイバーネーション機能を有効にして電源スイッチを切った後、バッテリーパックとACアダプターの両方を取り外しても、次回、電源を入れたときには元の状態に戻ることができます。

サスペンド／リジューム機能やハイバーネーション機能を使うと、以下のようなことが行えます。

・アプリケーションプログラムを使っているとき、アプリケーションプログラムから抜けなくても、単に電源を切ったり入れたりするだけでプログラムを中断させたり、再開させたりできます。
・SETUPN0 プログラムで、「サスペンド／ハイバーネーションタイムアウト」の時間間隔を設定していると、一定時間コンピューターを触らなかった場合に自動的に電源を切って、電力の消費を抑えます。再度、電源を入れたときには切る前の状態に戻ります。

お願い

●バッテリーパックのみでサスペンド／リジュームを行うと、本体の電源を入れても、電源が切れる前の状態に戻らないことがあります。ACアダプターをつなぐか、十分充電してから、電源を入れてください。
●システムパスワードが設定されていて、サスペンド／リジューム機能を使用する場合、サスペンド／リジューム時に、1分間 LED インジケーター（CapsLK、NumLK、ScrLK）が点滅します。この間に、システムパスワードを入力してください。1分間経過するか3回パスワードを誤ると、再度サスペンドします。パスワード待ちの間、電源スイッチは働きません。
●サスペンド／リジューム処理中は、トラックボール、マウスを動かさないでください。動かすと、リジュームした後、トラックボールやマウスが動作しなくなります。
●フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブの動作中は、絶対に、コンピューターの電源スイッチ押さないでください。

＜サスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能使用上の注意＞

●マウス、モデム、その他のシリアルデバイスは、サスペンド／リジューム後、システムに認識されないことがあります。そのようなときには、デバイスを初期化し直してください。

● PC カードなど周辺装置が本機に接続されている場合、サスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能はこれらの周辺装置では使えません。
また、PCカードをセットしたままサスペンド状態に入ると、サスペンド中の消費電力が増えることがあります。

●サスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能は、以下のアプリケーションプログラム動作中には使用できないことがあります。

MS-DOS 以外の OS
Diag（自己診断）プログラム

●通信ソフト動作中はサスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能は使用しないでください。エラーが発生します。

●オーディオの録音または再生中は、サスペンド状態およびハイバーネーション状態にしないでください。実行ファイルとデータが壊れる可能性があります。

＜サスペンド／リジューム機能使用上の注意＞

●リセットスイッチを押すと、サスペンド／リジューム機能によって保存されていたデータは失われます。

＜ハイバーネーション機能使用上の注意＞

●ハイバーネーション機能を使用するためには、内蔵ハードディスク上に、メモリーデータ書き出し用に一定の空き領域が必要です。領域は、SETUPN0 プログラムでハイバーネーション機能を設定すると、実装メモリーの大きさに合わせて自動的に確保されます。

●メモリーを増設したときやハードディスクをフォーマットしたときには、必ず、SETUPN0 プログラムを起動し、「4.省電力設定」の「パワースイッチ」の項目でハイバーネーション機能を再設定してください。
再設定しない場合は、「パワースイッチ」は、「サスペンド」に設定されています。

参考

サスペンド／リジューム機能を有効に設定している場合に、電源を切ったときの状態を「サスペンド状態」、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを「リジュームする」と言います。

<オートサスペンド／ハイバーネーション機能とは>

一定時間、キーやトラックボール、マウスの入力およびHDD、FDD、パラレルポートのアクセスがないと、自動的に電源を切る機能です。
オートサスペンド／ハイバーネーション機能を設定するには、SETUPN0プログラムを起動し、「4. 省電力設定」の項目で「パワースイッチ」を「サスペンド」または「ハイバーネーション」に設定し、「サスペンド／ハイバーネーションタイムアウト」で時間を「5分」か「20分」に設定します。

参考

動作がオートサスペンド／ハイバーネーション機能によって中断された場合、再度電源スイッチを入れると、元の画面が復元されます。

<スタンバイ機能とは>

一定時間、キーやマウスの入力およびHDD、FDD、パラレルポートのアクセスがないと、ハードディスクドライブモーターを止めて、LCD、バックライトを消します。スタンバイタイムアウトとサスペンド／ハイバーネーションタイムアウトの両方が設定されている場合は、スタンバイ状態に入った後、サスペンド状態またはハイバーネーション状態になります。
スタンバイ機能を設定するには、SETUPN0プログラムを起動し、「4. 省電力設定」の項目で「1. 省電力」を「有効」に設定します。

例）　スタンバイタイムアウト：約２分
　　　サスペンド／ハイバーネーションタイムアウト：約５分

コンピューター動作中

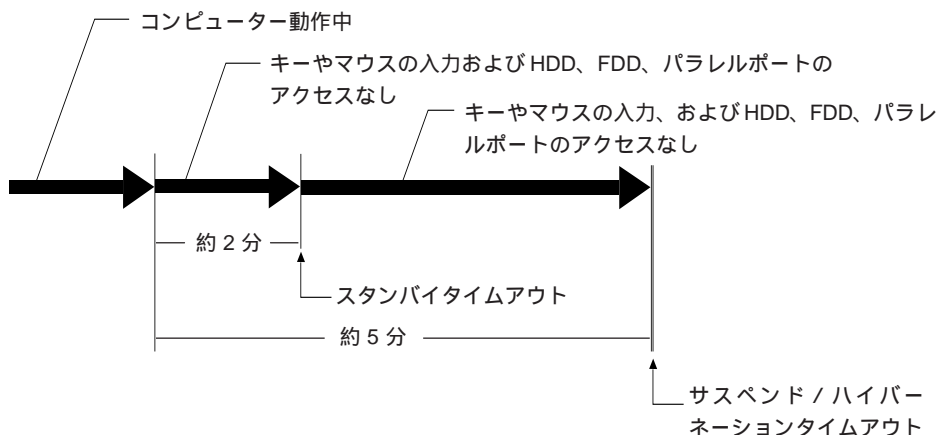
キーやマウスの入力およびHDD、FDD、パラレルポートのアクセスなし

キーやマウスの入力、およびHDD、FDD、パラレルポートのアクセスなし

約2分

スタンバイタイムアウト

約5分

サスペンド／ハイバーネーションタイムアウト

[Fn] キーを押しながら [F10] キーを押すと、コンピューターがスタンバイ状態になります。キーボード（[Fn] キーを除く）、内蔵トラックボール／マウスポートの入力があった場合には、再びLCDとバックライトの電源が入ります。

＜省電力設定＞

バッテリーパックを長時間使用するための省電力機能と、コンピューターの操作を中断するときに便利なサスペンド／リジューム機能やハイバーネーション機能の設定方法を以下に説明します。
SETUPN0 ログラムで「省電力設定」を指定すると、以下のサブメニュー画面が表示されます。

```
省電力設定

1. 省電力：                          有効 (ﾊﾞｯﾃﾘｰ)

   CPU ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾁｪﾝｼﾞ ﾓｰﾄﾞ：          有効
   HDD ﾓｰﾀｰ ﾀｲﾑｱｳﾄ：                １分
   ｽﾀﾝﾊﾞｲ ﾀｲﾑｱｳﾄ：                  ２分

2. ﾊﾟﾜｰｽｲｯﾁ：                        ｻｽﾍﾟﾝﾄﾞ

3. ｻｽﾍﾟﾝﾄﾞ/ﾊｲﾊﾞｰﾈｰｼｮﾝﾀｲﾑｱｳﾄ：        ５分

4. ﾎｯﾄｷｰ ﾊｲﾊﾞｰﾈｰｼｮﾝ：                無効

Esc      F1       F2       F10        Enter     ↑↓
取 消    説 明    設 定    標準設定   選 択     ｶｰｿﾙ 移動
```

1. 省電力

省電力機能を「有効（バッテリー)」、「有効（バッテリー /AC アダプター)」、「無効」のいずれにするかを設定します。標準設定は「有効（バッテリー)」です。

CPU スピードチェンジモード

キーやマウスの入力待ちのような場合、節電のために、CPUの速度を下げます。「1.省電力」を「有効」に設定すると、「CPUスピードチェンジモード」は自動的に「有効」になります。

HDD モータータイムアウト

ハードディスクドライブが一定時間内にアクセスされないとき、ドライブモーターが自動的に停止します。
「1.省電力」を「有効」に設定すると、「HDD モータータイムアウト」は自動的に「1 分」になります。

スタンバイタイムアウト

キーやマウスの入力、パラレルポート、HDD のアクセスが一定時間なければ、自動的にスタンバイ状態になります。「1.省電力」を「有効」に設定すると、「スタンバイタイムアウト」は自動的に「2分」になります。

2. パワースイッチ

「ON-OFF」、「サスペンド」、「ハイバーネーション」のいずれかを指定します。「ON-OFF」を指定すると、電源スイッチの ON/OFF 時にサスペンド／リジューム機能もハイバーネーション機能も働きません。「サスペンド」を指定すると、サスペンド／リジューム機能が有効になります。「ハイバーネーション」を指定すると、ハイバーネーション機能が有効になります。標準設定は「サスペンド」です。

3. サスペンド／ハイバーネーションタイムアウト

キーやマウスの入力が一定時間なく、パラレルポート、HDD、FDDのアクセスがなかったとき、コンピューターの電源を自動的に切ります。
電源スイッチを押して、再び電源を入れたとき、停止した状態から動作を開始します。
「無効」「５分」「20分」から選択します。標準設定は「５分」です。また、「パワースイッチ」の設定で「ON-OFF」を指定していると、この機能は、自動的に「無効」に設定されます。

4. ホットキーハイバーネーション

ホットキーハイバーネーション機能が「有効」か「無効」かを指定します。
「有効」に設定しておくと、「パワースイッチ」の設定で「ON-OFF」あるいは「サスペンド」を指定していても、[Fn] キーを押しながら [F7] キーを押すと、ハイバーネーション機能が働きます。
標準設定は「無効」です。また、「パワースイッチ」の設定で「ハイバーネーション」を指定していると、この機能は、自動的に「有効」に設定されます。

お願い

「1.省電力」で「有効（バッテリー）」または「無効」が設定されている場合、ACアダプターを接続していると、サスペンド／ハイバーネーションタイムアウトは働きません。

3 モード FD 対応ユーティリティー

外付けフロッピーディスクドライブで、3.5インチ2HDフロッピーディスクを1.2Mバイトフォーマット（8セクター）で使用するためには、3モードドライバー（FD3MODE.COM）が必要です。1.2Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットするには、FORMAT3コマンドを使います。

3モードドライバーとFORMAT3コマンドは、お買い上げ時にハードディスクにインストールされています。

お願い

- FORMAT3コマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを他のコンピューターで扱う場合、および他のコンピューターで1.2Mバイトにフォーマットしたフロッピーディスクを本機で扱う場合、そのフロッピーディスクに対する書き込みが正常に行えない場合があります。
- マイクロソフト株式会社から提供されている3モード対応ドライバー1024FD.EXEは、本機では動作しません。
  1.2Mバイト3.5インチフロッピーディスクを使用する場合は、FD3MODE.COMが必要です。
- 1.2Mバイト3.5インチフロッピーディスクに対して動作するコマンドは、ファイルの読み書きを行うコマンドおよびDISKCOPYコマンドです。
  SCANDISKコマンドのようにディスクのセクター／クラスターを直接操作するコマンドやMSBACKUPコマンドのようにコマンド自体が1.2Mバイト3.5インチフロッピーディスクをサポートしていないものは正常に動作しません。
- Windowsのファイルマネージャーの「ディスク」の「フロッピーディスクをコピーする」は1.2Mバイトフロッピーディスクには対応していません。正常には動作しませんので、1.2Mバイトフロッピーディスクに対しては実行しないでください。
- FD3MODEを組み込んだ状態でDBLSPACEコマンドを実行すると「互換性のないディスクキャッシュプログラムが組み込まれています」というエラーメッセージが表示されます。DBLSPACEを実行するときはFD3MODEを組み込まないでください。

参考

3 モードドライバー　FD3MODE.COM について

機能　外付けフロッピーディスクドライブで1.2Mバイトのフロッピーディスクを扱えるようにします。

書式　[<ドライブ名>:]　[<パス名>]　FD3MODE.COM

注意　出荷時には、FD3MODE.COMはAUTOEXEC.BATに登録されており、システム起動時に自動的に組み込まれます。

参考

外部コマンド　FORMAT3 について

書式　FORMAT3 [ドライブ名 :]　[/V [: ラベル]]　[/Q]　[/1024]　[/512]

解説　外付けフロッピーディスクドライブで 3.5 インチ 2HD フロッピーディスクを 1.2M バイトでフォーマット（初期化）します。

オプションスイッチ

/V : ラベル　ボリュームラベル（半角で 1 〜 11 文字）を指定します。

/Q　ファイルアロケーションテーブル（FAT）と以前にフォーマットされたディスクのルートディレクトリーを削除しますが、ディスク上の不良個所の検査はしません。このスイッチは、以前に不良個所のない状態でフォーマットされているディスクをフォーマットするときにだけ、使用してください。

/1024　2HD のディスクを 8 セクター（1024 バイト / セクター）フォーマットで初期化します。ディスクの容量は、1232Kバイトになります。オプションを付けない場合は、このフォーマットで初期化されます。

/512　2HD のディスクを 15 セクター（512 バイト / セクター）フォーマットで初期化します。ディスクの容量は、1200K バイトになります。

注意　システム転送はできません。
UNFORMAT はできません。

PC カードデバイスドライバー＆ユーティリティー

◆インストールのしかた

PCカードを使用するためには、PCカード用のデバイスドライバーをインストールする必要があります。以下にその手順を説明します。

◆インストールを行う前に

セットしている PC カードをすべて抜いて、再起動してください。

1. PC カードインストールプログラムを起動します。
MS-DOS のプロンプト（C：¥＞）が表示されている状態で、以下のように入力します。

CD ¥UTIL¥PCCARD [Enter]
INSTIC [Enter]

2. 使用する PC カードの種類を選択する画面が表示されます。使用するカードの番号を入力してください。「メモリカード、PC ATA カード」、「モデムカード」、「メモリカード、PC ATA カード、モデムカード」、「カードサービス＆ソケットサービスのみ」の 4 種類から選択します。

参考 メモリーカードと PC ATA カードは必要なデバイスドライバーが同じなので、「メモリカード、PC ATA カード」としてひとつの項目にまとめられています。

3. CONFIG.SYS にPC カード用デバイスドライバーを登録するかどうかのメッセージが表示されます。登録する場合は、[Y] キーを押します。元の CONFIG.SYS は CONFIG.YOU というファイル名で保存されます。
CONFIG.SYS には、以下の行が登録されます。

DEVICE=C：¥DO̅S¥EMM386.EXE X=CC00-CFFF ＊注 1）
DEVICE=C：¥UTIL\PCCARD¥IBMDSS01.SYS
DEVICE=C：¥UTIL\PCCARD¥IBMDO̅SCS.SYS
DEVICE=C：\UTIL\PCCARD\DISKDRV.SYS ＊注 2）
DEVICE=C：¥UTIL\PCCARD¥AUTO̅DRV.SYS C：\UTIL¥PCCARD¥AUTO̅DRV.INI ＊注 3）

注 1）元の CONFIG.SYS にEMM386 が登録されている場合、上記の設定に書き換わります。アプリケーションソフト等が起動できなくなる場合がありますので、必ず元のオプションスイッチを追加してください。（元の行の先頭に REM が付きます。）
注 2）4 種類のうち「メモリカード、PC ATA カード」を含む選択をした場合。
注 3）4 種類のうち「モデムカード」を含む選択をした場合。

4. Windows の SYSTEM.INI ファイルを書き換えるために、SYSTEM.INI の標準のドライブ名とディレクトリー名が表示されます。（SYSTEM.INI ファイルは、Windows がインストールされているディレクトリーにあります。）
表示されたドライブ名とディレクトリー名にWindowsがインストールされている場合は、[Enter] キーを押してください。
表示されたドライブ名とディレクトリー名と別のところにWindowsがインストールされている場合は、そのドライブ名とディレクトリー名に変更して、[Enter] キーを押してください。
Windows がインストールされていない場合は、表示されたドライブ名とディレクトリー名のままで、[Enter] キーを押してください。

5. Windows がインストールされている場合は、SYSTEM.INI を書き換えるかどうかの確認メッセージが表示されます。書き換える場合は［Y］キーを、書き換えない場合は［N ］キーを押してください。
SYSTEM.INI は、以下のように書き換えられます。

```
[386Enh]
emmexclude=CC00-CFFF  （追加）
;device=＊vcd  （モデムカードのときこの命令は無視）
device=\UTIL\PCCARD\VCDMEI.386  （以降、モデムカードのとき追加）
COMVerifyBase=FALSE
COM1Base=3F8
COM2Base=2F8
COM3Base=3E8
COM4Base=2E8
COM1IRQ=4
COM2IRQ=3
COM3IRQ=15
COM4IRQ=15
```

6. 4種類のうち「モデムカード」を含む選択をした場合は、AUTODRV.INIファイルを書き換えるかどうかの確認メッセージが表示されます。
書き換える場合は［Y］キーを、書き換えない場合は［N］キーを押してください。
書き換えた場合は、AUTODRV.INIファイルの「Modem」のところの

Port1=3F8,IRQ=4
Port1=2F8,IRQ=3
Port1=3E8,IRQ=15
Port1=2E8,IRQ=15

のうち、本体で使用しているシリアルポートに対応する行の先頭に；が追加され、その行がコメントアウトされます。。

参考
モデムカードを使用するときは、SETUPN0プログラムの「システム設定」で「シリアルポート」または「IrDAポート」を「OFF」に設定しておくことをお勧めします。

7. システムを再起動します。

お願い
- ●PCカードをDOSドライブとして使用するとき、書き込みキャッシュは使用しないでください。
- ●システムがPCカードを認識できるまで約10秒間かかります。その間キーボードやトラックボールなど入力されるものにはさわらないでください。

◆CONFIG.SYSへの組み込み

1. PCMCIAのスロットを使用するためには、CONFIG.SYSファイルに以下のドライバーを組み込む必要があります。

DEVICE=C:¥UTIL\PCCARD¥IBMDSS01.SYS
DEVICE=C:¥UTIL\PCCARD¥IBMDOSCS.SYS

2. モデムカードを使用するには、手順1.のドライバーに加えて以下のドライバーを組み込む必要があります。

DEVICE=C:¥UTIL\PCCARD¥AUTODRV.SYS C:¥UTIL\PCCARD¥AUTODRV.INI

3. メモリーカードやPC ATAカードをアクセスするには、手順1.のドライバーに加えて以下のドライバーを組み込む必要があります。

DEVICE=C:¥UTIL\PCCARD¥DISKDRV.SYS

参考

● AUTODRV.SYSが組み込まれていると、カードの抜き差し時にビープ音を鳴らすことができます。お買い上げ時には鳴る設定になっています。変更するには、AUTODRV.INIファイルの"BEEP=ON"の行を"BEEP=OFF"に書き換えてください。なお、IBMDSS01.SYS、IBMDOSCS.SYSだけが組み込まれていても、ビープ音は鳴りません。

● **DISKDRV.SYS ドライバーについて**

機能 PC カードを FD や HD と同じようにアクセスするドライバーです。

書式 DEVICE=［<ドライブ名>:］［<パス名>］DISKDRV.SYS

参考 ROM カードの場合は、書き込みできません。

◆ディスプレイドライバー

本機では、以下の解像度、色数のディスプレイドライバーが使用できます。

CHIPS 655DGX 640×480 65536色（12ドット・16ドット）
CHIPS 655DGX 640×480 32768色（12ドット・16ドット）
CHIPS 655DGX 640×480 256色（12ドット・16ドット）
CHIPS 655DGX 640×480 16色（12ドット・16ドット）
CHIPS 655DGX 800×600 256色（12ドット・16ドット・20ドット）
CHIPS 655DGX 800×600 16色（12ドット・16ドット・20ドット）
CHIPS 655DGX 1024×768 256色（12ドット・16ドット・20ドット）
CHIPS 655DGX 1024×768 16色（12ドット・16ドット・20ドット）
VGA
VGA（12ドットシステムフォント）

ただし、CHIPS のディスプレイドライバーは、Windows のスタンダードモードでは動作しません。

以降にディスプレイドライバーの設定方法について説明します。

1. プログラムマネージャーの「メイン」の「Windows セットアップ」を選択します。

2.「設定」メニューから「基本ハードウェアの変更」を選択します。

3.「ディスプレイ」から項目をクリックすると、ディスプレイの解像度、色数の一覧が表示されます。変更したい解像度、色数にカーソルを合わせて「OK」をクリックします。

4. 確認のためのパネルが表示されます。「現在のものを使用」を選択します。

5.「Windows を再起動」をクリックすると、ディスプレイの設定が変更されて、再び Windows が起動されます。

前述以外のディスプレイドライバーを選択すると、Windowsの再起動ができなくなりますので注意してください。もし、選択してしまった場合は、以下の手順に従って本機で使用可能なディスプレイドライバーに設定し直してください。

1. MS-DOS のプロンプト（C:\>）が表示されている状態で以下のように入力します。

CD WINDOWS [Enter]
SETUP [Enter]

2.「システム情報」のディスプレイの項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押し、ディスプレイ一覧の中から本機で対応している前述のいずれかのディスプレイドライバーを選択します。
「システム情報」の画面に戻ります。

3.「変更完了」にカーソルを合わせて、[Enter] キーを押します。
確認の画面が表示されますので、[Enter] キーを押し、設定を完了します。

参考

●プログラムマネージャーの「メイン」の「コントロールパネル」から、「画面の色」の項目を選んで、選択されているウィンドウのタイトルバーの色を変更することができます。ただし、色によっては色合いが薄く表示されるモードがあります。「Panasonic」を選ぶと比較的明瞭な表示になります。

●800 × 600 または 1024 × 768 のディスプレイドライバーを選択した場合、外部モニターを接続したときはその解像度で表示できますが、LCD モニターのときはディスプレイには 640 × 480 の画像サイズの領域しか表示されません。ただし、この場合、マウスのカーソルを画面の端に移動すると、自動的に表示をスクロールします。（パンニング機能）

メモリーの扱い方

メモリーの種類

本機は、以下の様なメモリー構成になっています。

メモリーマップ

領域	開始アドレス
基本メモリー	00000H
ビデオRAM	A0000H
ビデオBIOS	C0000H
	CBFFFH
メインBIOS	F0000H
拡張メモリー	100000H

■基本メモリー

最初の640Kバイトの RAM は、基本メモリーと呼ばれます。MS-DOS が使用されているとき、アプリケーションプログラムは、通常基本メモリーで動きます。

■拡張メモリー

最初の1Mバイトより上位のメモリー領域は、拡張メモリーと呼ばれています。このメモリー領域は、80286以上のCPUでしか動かないOSやアプリケーションプログラムを動かすために使用されます。この領域で動く主なプログラムに、OS/2やWindowsがあります。

困ったときに開くページ

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、ソフトウェアによる原因も考えられますので、MS-DOSやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。
どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	●本体の AC アダプターは、本体の電源コネクターおよび電源コンセントに差し込まれていますか？ ●十分充電されたバッテリーパックが正しく入っていますか？ ●本体裏面のリセットスイッチを押して、本機を再起動させたあと正常に動作しませんか？
ディスプレイの画面に何も表示されない	●コントラスト調節ボタンは正しく調節されていますか？ ●省電力機能によって、自動的にディスプレイが消えることがあります。いずれかのキーを押すと、元に戻ります。 ●SETUPN0プログラムで外部モニターが選ばれていませんか？
ディスプレイの画面が暗すぎる	●コントラスト調節ボタンは正しく調節されていますか？ ●輝度調節ボタンは正しく調節されていますか？
画面上の日付／時刻の表示が違っている	● DATE/TIME コマンドか SETUPN0 プログラムを使って、正しい日付／時刻を設定してください。 ●日付／時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）が切れかかっているおそれがあります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
システムパスワードを忘れてしまった	●お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

動作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
アプリケーションソフト動作中、漢字が正しく表示されない	●Netware 3.12J など、アプリケーションソフトによっては、高速化のためにフォントデータをアドレスで直接アクセスするものがあります。このようなソフトウェアでは、プレインストールされているフォントファイルを使用すると文字化けが起こります。 これを回避するには、「保存ディスク」のDOSディレクトリーに入っているKANJI16N.FNTをCONFIG.SYSで指定しているディレクトリー（指定のない場合はCONFIG.SYSの存在するディレクトリー）にKANJI16.FNTというファイル名に変更してコピーして使用してください。 この場合、13区の文字（AX選定文字）は表示されなくなります。元に戻す場合は、「保存ディスク」のDOSディレクトリーに入っているKANJI16.FNTをコピーしてご使用ください。
PCカード用デバイスドライバーをインストール後、アプリケーションソフトが起動できなくなった	●EMM386.EXEのオプション設定に原因がある可能性があります。CONFIG.SYSの内容を確認してください。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に本機が動かなくなった	●バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーが切れたおそれがあります。ACアダプターを接続してください。 ●使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。そのソフトウェアの使用を中止し、リセットスイッチを押し本機を再起動してください。
バッテリーインジケーターが赤く点灯している	●バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 ●ACアダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。
バッテリーインジケーターが赤く点滅している	●バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 ●それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
バッテリーインジケーターの赤色点灯が長く続いている	●急激な温度変化があると、赤色点灯が長く続くことがあります。
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴り始めた	●バッテリーが切れかかっています。ACアダプターを接続してください。

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
ディスプレイ画面が消えた	●省電力機能によって、スタンバイ状態になることがあります。スタンバイ状態では、いずれかのキーを押すと、元に戻ります。
残像が現れる	●イメージが画面に残ると、画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が現れてしばらくたつと、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残る	●これらのドットが残るのは、カラー液晶ディスプレイの特質です。故障ではありません。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブにアクセスしない	●外付けフロッピーディスクドライブが正しく接続されていますか？ ●フロッピーディスクは正しくセットされていますか？ ●フロッピーディスクは初期化されていますか？ ●ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていませんか？
フロッピーディスクが初期化できない	●コマンドを正しく入力しましたか？　また、コマンドパラメーターに誤りはありませんか？ ●ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていませんか？
ハードディスクドライブにアクセスしない	●ハードディスクを正しく準備していますか？ ●原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
プリンターが動かない	●ケーブルが本体・プリンター間で正しく接続されていますか？ ●プリンターの電源は入っていますか？ ●プリンターがオンライン状態になっていますか？ ● SETUPN0 プログラムで、「アドレス（パラレルポート）：」を「378」または「3BC」に設定してください。
マウスが使えない	●マウスケーブルが本体に正しく差し込まれていますか？ ●マウスのデバイスドライバープログラムがロードされ、動いていますか？ 詳しくは、お使いのアプリケーション、またはマウスのプログラムのマニュアルを参照してください。 ●マウスがシリアルポートに接続されている場合は、SETUPN0 プログラムで「マウス」の設定で「シリアルポート」を選択してください。その後、「シリアルポート」を「3F8 (IRQ4)」か「2F8 (IRQ3)」に設定してください。 ● PS/2 マウスが外部キーボード／マウスポートに接続されている場合は、SETUPN0 プログラムで「マウス」の設定で「内蔵トラックボール／マウスポート」を選択してください。
トラックボールが使えない	●マウスのデバイスドライバープログラムがロードされ、動いていますか？ 詳しくは、お使いのアプリケーションプログラムのマニュアルを参照してください。 ● SETUPN0 プログラムのマウスの設定が「内蔵トラックボール／マウスポート」になっていますか？ ●トラックボールが汚れていると動きが悪くなることがあります。トラックボールを清掃してください。

<table>
<tr><th>こんなときは</th><th>ここをお調べください</th></tr>
<tr><td>PC カードが使えない</td><td>●カードは正しくセットされていますか？
●当社指定以外のカードを使用していませんか？
●適切なドライバープログラムがインストールされていますか？
● PC カードが使用している I/O アドレス、IRQ ナンバー、チャンネルを確認し、設定し直してください。

〈I/O アドレス〉
以下のアドレスをさけて設定し直してください。
I/O : 000H-00FFH　(システムボード)
x1F0H-x1F7H　(ハードディスクドライブ)
x222H-x22EH　(サウンド)
x2F8H-x2FFH　(赤外線通信ポート) *1
x378H-x37FH　(パラレルポート) *2
x388H-x389H　(FM)
x3B0H-x3BBH　(VGA)
x3BCH-x3BFH　(パラレルポート) *2
x3C0H-x3DFH　(VGA)
x3E0H-x3E1H　(PC カードコントローラー)
x3F0H-x3F7H　(フロッピーディスクコントローラー)
x3F8H-x3FFH　(シリアルポート) *3
アドレスの頭の“ x ”は、アドレスライン（A15-A10）の値に関係なくそのアドレスが使えないことを意味します。

*1 赤外線通信 (IrDA) ポートアドレスは、SETUPN0 プログラムで 2F8H、3F8H、OFF のいずれかに設定できます。
*2 パラレルポートアドレスは、SETUPN0 プログラムで 378H, 3BCH, OFF のいずれかに設定できます。
*3 シリアルポートアドレスは、SETUPN0 プログラムで 3F8H, 2F8H, OFF のいずれかに設定できます。

〈IRQ ナンバー〉
以下のいずれかに設定してください。
IRQ：　3*1，4*2，7*3，9，10，11，15
*1 IRQ3 は、通常、COM2（赤外線通信ポート）が使用しています。
*2 IRQ4 は、通常、COM1（シリアルポート）が使用しています。
*3 IRQ7 は、通常、プリンターに使用されます。

PC カードで、IRQ3 または IRQ4 を使用するときは、SETUPN0 プログラムでシリアルポートまたは赤外線通信 (IrDA) ポートを「無効」にしてください。</td></tr>
</table>

自己診断プログラム

DIAGN0 プログラム

DIAGN0 プログラムを使うと、本機各部の動作のテストをすることができます。テストしたい項目は、診断メニューから選択します。

1. フロッピーディスクドライブに「保存ディスク」をセットし、[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら [Del] キーを押してリブートするか、リセットスイッチを押します。

2. MS-DOS のプロンプト（A：¥DOS ＞）に続けて、以下のように入力します。

DIAGN0 [Enter]

3. 以下のメニュー画面が表示されます。メニュー項目を選択するには、カーソルキー（[↑]、[↓]）でテストしたい項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すか、テストしたい項目の番号を入力して [Enter] キーを押します。

```
        DIAGNOSTIC MENU  ( V*.*  L**)

          1. TEST ALL DEVICES (■ DEVICES)
          2. TEST AUTOMATICALLY (■ DEVICES)
          3. CHANGE MENU
          4. EXIT
■         5. MAIN BOARD
■         6. ***KB RANDOM ACCESS MEMORY
■         7. KEYBOARD
          8. TRACK BALL
■         9. VIDEO
■        10. 1 HARD DISK DRIVE (S)
■        11. 1 FLOPPY DISK DRIVE (S)*
         12. 1 PARALLEL PORT (S)**
■        13. 2 SERIAL PORT (S)**
         14. SOUND

SELECT MENU : 1
```

注）＊　フロッピーディスクドライブがセットされていない場合、11の項目は表示されません。

＊＊ SETUPN0 の設定によっては 12、13 の項目が表示されません。

自己診断テスト（キーボード以外）を中止する場合は、[Ctrl] キーを押しながら [Pause] キーを押してください。

◆キーボードの操作

キー	結果
Esc	前画面に戻ります。
↑ ↓	カーソルを上下に移動し項目を変更します。
Enter	テストを始めます。
Ctrl + P	プリンターへ出力するかしないかを切り替えます。
Ctrl + Pause Break	実行中の診断プログラムを停止します。(キーボードテストは停止できません。)

◆主なテスト内容

DIAGN0 の主なテスト内容や注意点について説明します。
(一部の項目の説明は省略しています。)

テスト項目	内容と注意
TEST ALL DEVICES	すべての項目範囲から ■ の付いた項目を選択し、テストします。
TEST AUTOMATICALLY	■ の付いた、すべての項目を自動的にテストします。
CHANGE MENU	"TEST ALL DEVICES" と "TEST AUTOMATICALLY" でテストする項目（■ 印）を選択することができます。項目にカーソルを移動させ [Enter] キーを押すと ■ 印を付けたり、消したりできます。
EXIT	自己診断プログラムを終了し、コンピューターを再起動します。
MAIN BOARD	各種集積回路のテストを行います。 キーボードからは何も入力しないでください。
***KB RANDOM ACCESS MEMORY	基本メモリーと拡張メモリーをテストします。
VIDEO	S-VGA 高解像度モードのテストは、外部モニターのみが使われている状態で行ってください。SETUPN0 を使ってディスプレイを切り替えてから DIAGN0 を起動してください。
1 HARD DISK DRIVE (S) 1 FLOPPY DISK DRIVE (S)	それぞれディスクのデータの書き込み、読み出しを行います。 ハードディスクのバックアップを取っておいてください。 消去可能なフロッピーディスクを使用してください。
1 PARALLEL PORT (S) 2 SERIAL PORT (S)	[EXTERNAL LOOPBACK TEST] では、外部接続コネクターに接続された回線との応答テストを行います。 パラレルポートとシリアルポートにコネクターを接続した状態で行ってください。
Sound	FM 音源での再生をテストします。

BIOS が表示するエラーコード一覧

BIOSのエラーが発生した場合は、起動時に以下のようなエラーコードが表示されます。[F1] キーを押すと、続行されますので、SETUPN0 コマンドを起動して設定内容を確認した後、システムを再起動してください。
各エラーコードの意味は以下のとおりです。

エラーコード	意味
101	割り込みコントローラーのエラーです
102	タイマーのエラーです
114	ROM チェックサムエラーです
151	リアルタイムクロックのエラーです
162	CMOS の設定が誤っています
163	クロックが動作していません
164	CMOS メモリーサイズが誤っています
201	メモリーのデータエラーです
301	キーボードのエラーです
303	キーボードとシステムボードのインターフェースエラーです
601	フロッピーディスクドライブかコントローラーのエラーです
602	起動しようとしたフロッピーディスクが壊れているか、正しくフォーマットされていません
604	サポートしていないフロッピーディスクドライブがインストールされています
1780	ハードディスク 0 のテストに失敗しました
1781	ハードディスク 1 のテストに失敗しました
2400	システムボードのビデオエラーです
2401	システムボードのビデオエラーです
8601	キーボード／マウスインターフェースのエラーです
8603	マウスかシステムボードのエラーです
I9990301	ハードディスクのエラーです
I9990305	OS がみつかりませんでした
0	2 回以上連続して自己診断プログラム（POST）が中断され、システムボードにデフォルト設定が行われました または、キーボードコントローラーのエラーです
その他のエラーコード	自己診断プログラムがエラーを発見しました

本体仕様

機種		AL-N0D413J3
CPU		Am5x86 133 MHz
メモリー	メインRAM	24 Mバイト
	ROM	128 kバイト
	ビデオメモリー	1 Mバイト
ハードディスクドライブ		810 Mバイト
表示機能	テキスト表示	80文字×25行
	グラフィック表示	解像度：640×480ドット
		色数：65536色
	漢字表示	日本語40文字×25行
入力装置	キーボード	総数88キー
	トラックボール	直径16 mmトラックボール
インターフェース	プリンター	セントロニクス準拠D-sub 25ピン
	RS-232C規格	RS-232C D-sub 9ピン
	拡張キーボード マウス テンキーボード	PS/2タイプ
	VGAモニター	アナログRGB D-sub 15ピン
	音声	マイク入力（MICミニM3）×1 ヘッドホン出力（PHONESミニM3 32オーム 0.24 mW）×1
	赤外線通信ポート	IrDA-SIR準拠、最大115.2kbps
カードスロット	PCカード専用	タイプII×2スロット　または　タイプIII×1スロット （5 Vで600 mA *1／12 Vで100 mA*2）
	RAMモジュール専用	1スロット
オーディオ機能		PCM音源（Sound Blaster互換）FM音源　スピーカー搭載
時計機能		クロックバッテリーバックアップ　月差±60秒
電源	入力	ACアダプター15 V（入力AC100ー240 V、50/60 Hz） バッテリーパック10.8 V（Li-Ion）
	消費電力*2	約14 W（約12 W）
バッテリー稼働時間		標準約1.7（最大約3.4）時間
外形寸法（幅×奥行×高さ）		255×162×36.4 mm
質量		1.31 kg
使用環境条件		温度：5〜35 ℃　湿度：30〜80 %RH（結露なきこと）
導入済みソフトウェア		MS-DOS 6.2/V、Microsoft Windows 3.1、Dashboardライト™、 TranXit ™ for Windows、各種ドライバーなど
フロッピーディスクドライブ		外付け1ドライブー3.5インチ（1.44 M/1.2 M/720 kバイト）

1Mバイト＝10^6バイト表記です。

***1** 2スロット合計の許容電流です。

***2** 動作中の最大消費電力です。（　）内は、電源オフ時、バッテリー充電中の表記です。
また、電源オフ時、バッテリーの消費電力は約30 mWです。

TranXit ™ for Windows
ユーザーズガイド

TranXit の紹介

TranXit™ for Windows を使うことにより、IBM 互換の 2 台のデスクトップ PC、ノートブックPC、およびサブノートブックPCの間で高速でしかも簡単にファイルの同期および転送をすることができます。TranXit は、ファイルのすべての操作を行うのに赤外線リンクまたはケーブル・リンクを使用し、その際にWindowsを終了したりフロッピーディスクにファイルをコピーする必要はありません。
TranXitを使用すると、2 台のコンピューターの間でデータを転送するだけでなく、遠隔コンピューター上でファイルのコピー、移動、削除、あるいはファイルの作成、ディレクトリーの削除を実行できます。TranXit のインターフェースは非常に使いやすく設計されています。ですから、初めての方にも TranXit の操作は信じられないくらい簡単に使用できます。

◆ TranXit の特徴のいくつかを、以下に示します。

▼マウスをクリックするだけで2台のコンピューターのドライブ全体またはディレクトリーを同期化します。
▼赤外線リンク、シリアル・ケーブル・リンク、またはパラレル・ケーブル・リンクを使って、ファイル、ディレクトリーおよびクリップボードの機能を遠隔実行します。
▼フロッピーディスクがなくても、ホスト・コンピューターからデスクトップPC、ノートブック PC、およびサブノートブック PC に遠隔導入します。
▼バックグラウンドで動作します。他のアプリケーションで作業している間でも大量のデータを転送または同期化できます。
▼非常に使いやすいオンライン・ヘルプ・システムを組み込んでいます。

TranXit のシステム要件

▼ 386 以上の PC 互換のコンピューター
（33MHz 以上の 486PC 互換のコンピューターを推奨）
▼ 4 メガバイトの RAM
▼全導入には 2.5 メガバイトの空きディスク容量が必要
▼ Microsoft マウスまたは互換性のある指示装置（推奨）
▼ MS-DOS®/PC-DOS 5.0 以上
▼ Microsoft® Windows 3.1 以上

TranXit の導入

お手元のTranXitは、2台のコンピューターでの使用が許可されています。使用するコンピューターにすでに TranXit が導入されている場合があります。この場合この章で述べる導入は行う必要はありません。導入には、便利な遠隔導入機能を使用する方法と導入フロッピーディスクから直接する方法とがあります。

◆フロッピーディスクドライブを備えていないコンピューターに TranXit を導入するには：

1. 両方のコンピューターの電源を入れ、TranXit 互換のシリアル・ケーブルで接続します。

お願い

遠隔コンピューターに TranXit を導入するには、双方向シリアル・ケーブルを使用する必要があります。TranXit互換ケーブルを注文したい場合は、（株）サムシンググッドに申し込んでいただくことができます。

2. ローカル・コンピューター（本機）で TranXit を起動します。
遠隔コンピューターはWindows を起動しないで、DOS のプロンプト画面のままにしておいてください。遠隔コンピューターで share.exe を実行していないことを確認してください。（このプログラムは通常、autoexec.bat ファイル内のコマンド行によって起動されます。）

3. ローカル・コンピューターで、TranXit のオプションメニューから遠隔導入を選びます。

お願い

1台目のコンピューターの導入処理時（本機の再インストール時）にソフトウェアのこの部分を導入しなかった場合は、遠隔導入オプションが淡色表示になっています（使用不可）。これを導入する必要がある場合は、導入プログラムをフロッピーディスクから再実行し、TranXitのどの部分を導入したいのかを聞かれたときにTranXit遠隔導入だけを選択してください。

4. 遠隔導入ダイアログ・ボックスの中で、ローカル・コンピューターと遠隔コンピューターの COM ポートを選択します。
これらのポートは、ケーブルが、接続されている COM ポートでなければなりません。

5. ローカル・コンピューターの画面に表示される指示に従い、遠隔導入処理を実行します。
遠隔導入中に発生する問題については、「障害追求」（P.97 ）を参照してください。

◆導入フロッピーディスクを使って TranXit を導入するには：

1. コンピューターのフロッピーディスクドライブにTranXitの導入フロッピーディスクを挿入します。
本機では再インストール用に作成した（P.20）インストールディスク「TRANXIT ディスク」が導入フロッピーディスクにあたります。

2. Windows が起動されていなければ、起動します。

3. プログラム・マネージャのファイルメニューから実行を選びます。

4. 「a : \ setup」（B ドライブを使用する場合は b : \ setup）を入力し、OK を選択するか［Enter］キーを押します。

5. 画面に表示される指示に従います。

◆TranXitセットアップダイアログ・ボックスに以下のような省略時の設定オプションが表示されます。

▼ C : \ TRANXIT ディレクトリーにファイルを導入
▼オンライン・ヘルプ・ファイルと遠隔導入ファイルを含む、プログラムのすべての部分を導入

必要に応じて、別のディレクトリーの名前を入力することもできます。また、遠隔導入機能またはヘルプ機能を導入したくない場合は、それらを選択解除することもできます。

◆ツールバー

TranXit のメインスクリーン上には TranXit を操作するためのツールバーがあります。ツールバー内の各々のボタンの動きはその上にマウスポインターを動かすことにより TranXit スクリーンの最下部のステータスフィールド内に表示されます。

2 台のコンピューターの接続

TranXit を導入後、両方のコンピューターに標準装備されている赤外線ポートあるいはケーブル、または外付けの赤外線装置を接続することによりデータを転送することができます。

◆接続を確立するには

1. 両方のシステムで、接続メニューの設定を選びます。

2. 接続設定確認ダイアログ・ボックスでは、2 台のコンピューターの間でファイルを転送するのに使用する接続の種類を選択できます。
シリアル・ケーブル、パラレル・ケーブル、または赤外線を選択します。接続設定を変更を選択すると、ポート番号、ボー・レート、ターボ・モードを使うかどうかなどの他の情報の入力を求められます。ターボ・モードを使うと性能が向上しますが、データ伝送中にマウスの使いやすさが著しく低下する場合があります。他のアプリケーションを使用中にバックグラウンドで大量のデータを転送する場合は、ターボ・モードの使用はお勧めできません。赤外線を使う場合は接続に使用する赤外線装置を選択する必要があります。また、ボー・レートは通常その装置で使用できる最高の値を選択します。
たとえば、あるときは赤外線装置を使用して別のときはケーブルを使用したい場合は、複数の種類の接続に関する情報を入力できます。TranXitを導入したあといつでも接続メニューの設定を選ぶことによって、接続の設定情報を変更できます。
2 台のコンピューターを接続するときに発生する問題については、「障害追求」（P.96）を参照してください。

◆遠隔コンピューターと接続するには

1. ローカル・コンピューターと遠隔コンピューターで TranXit を起動し、新ウィンドウボタンとウィンドウ・メニューの新遠隔ウィンドウメニュー・オプションがアクティブになる（淡色表示でなくなる）まで待ちます。

2. 一方のコンピューターで、ツール・バーの新ウィンドウボタンを選択します。
マウスがない場合は、ウィンドウ・メニューから新遠隔ウィンドウを選びます。

2 台のコンピューターが接続されると次のようになります。

▼ローカル・コンピューターに、遠隔コンピューターのファイルおよびディレクトリーを表示する新しいウィンドウが表示されます。
▼ローカル・コンピューターの新ウィンドウボタンとクリップボードボタンがアクティブになります。
▼遠隔コンピューターにシステム接続メッセージが表示されます。遠隔コンピューターをローカル・コンピューターが制御している間は、遠隔コンピューターでTranXitのコマンドは実行できません（ただし、TranXitがバックグラウンドで動作している間、遠隔コンピューターで他のアプリケーションを実行できます）。

これで、ファイルのコピー、ディレクトリーの同期化、および TranXit のその他の作業を実行する準備が整いました。

同期化

同期化は、両方のコンピューターで使用する複数のファイルおよびディレクトリーの内容を同一のものにする、強力で柔軟性のある TranXit の機能です。通常、たとえば同期化は、デスクトップ・コンピューターと出張に持参するラップトップ・コンピューター中で同じファイルを扱っているときすべてのファイルを最新バージョンに保つために使用します。また、たとえばドッキング・ステーションの中のハードディスクとラップトップ・コンピューターの間でファイルを同期化できます。他のコンピュータには存在しないファイルを 1 つのコンピューターからすべて削除するなど、他にも多くの方法で同期化を使用できます。同期化プレビュー機能を使用することにより、同期化後の結果を前もって見ることができます。

同期化の使い方の一例を、以下に示します。（TranXit オンライン・ヘルプには他の例も入っています。）この状況例では、両方のコンピューターに TranXit が導入されており、データ伝送の準備ができていることを前提にしています。

状況例：デスクトップ・コンピューターには、作業に使用する最新版のファイルが入っています。ポータブル・コンピューター（本機）にもこれらのファイルのほとんどが入っていますが、一部は最新版ではありません。ポータブル・コンピューター（本機）のファイルを最新版に更新したいと考えています。

◆同期化の手順

1. 両方のコンピューターでTranXitを起動し、それらの間に赤外線リンクまたはケーブル・データ・リンクを設定します。

2. デスクトップ・コンピューターで新ウィンドウボタンを選択するか、ウィンドウメニューの新遠隔をウィンドウを選択します。

3. 同期化ボタンがアクティブになったらそれを選ぶか、ディスクメニューの同期化を選びます。

4. 同期化したい最新版のファイルが入っている、デスクトップ・コンピューター上のディレクトリーを選択します。
   ディレクトリー・リストがダイアログ・ボックスの左側に表示されます。
   必要に応じて、コンピューター名の下のドロップダウン・リストから別のドライブを選びます。一度に 1 つのディレクトリーとそのサブディレクトリーしか同期化できません。

5. 古いバージョンのファイルが入っているポータブル・コンピューター（本機）上のディレクトリーを選択します。
   ディレクトリー・リストが 3 つの矢印ボタンの右側に表示されます。
   必要ならば、コンピューター名の下のドロップダウン・リストから別のドライブを選びます。

6. ≫ボタンがまだアクティブになっていなければ、選択します。

7. オプションボタンを選んで同期化オプションを表示します。

8. 左上にある4つのオプションのグループから新ファイルのみのコピーを選びます。また、ダイアログ・ボックスの左下にある最後のオプション、「上記のいずれでもない」を選びます。

9. 必要に応じて1つまたは複数の適用オプションを選択し、次にOKを選択します。

10. どのファイルがコピーされるのかを事前に確認したければ、プレビューを選択します。
結果が期待通りであれば、OK を選択してプレビューを終了します。

11. 同期化ダイアログ・ボックスで OK を選択し、ファイルを同期化します。

ファイルの操作

◆ファイルおよびディレクトリーのコピー

<マウスでファイルまたはディレクトリーをコピーするには>

1. TranXitファイルマネージャ上でコピーしたいファイルまたはディレクトリーを選択します。ディレクトリー内で複数のファイルを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらファイルを選択します。また、連続する複数のファイルを選択するには、まず最初のファイルを選択し、次に [Shift] キーを押しながら最後のファイルを選択します。

2. 選択されたファイルをコピー先のドライブ・アイコンまたはディレクトリー・アイコンまでマウスの左ボタンを押したままドラッグします。

3. マウスの左ボタンを離します。
TranXit は、マウス操作の確認メッセージを表示します。また、さらに同じ名前のファイルを上書きしていいかどうかの確認をユーザーに求めることがあります。

参考

マウス操作またはファイル置換の確認を無効にしていると、これらの確認メッセージは表示されません。

4. 確認ダイアログ・ボックスに表示されたファイルを上書きする場合ははいを選択し、同じ名前のファイルをすべて上書きする場合は全てにはいを選択します。
また、確認ダイアログ・ボックスに表示されたファイルの上書きをしたくない場合はいいえを選択し、コピーコマンドを取り消す場合はキャンセルを選択します。
各ファイルがコピーされるとき、画面上のメッセージにそのファイル名が表示されます。

参考

ファイルまたはディレクトリーを選択したあとに、マウスを使ってツール・バーのコピー・ボタンを選択することによってコピーすることもできます。

<キーボードによるファイルまたはディレクトリーのコピー>

1. 矢印キーを使用して、コピーしたいファイルまたはディレクトリーを選択します。

Tab キーを使ってディレクトリー・ウィンドウとファイル・ウィンドウの間を移動できます。複数のファイルを選択するには、矢印キーでファイルを選択するときに [Shift] キーを押します。

2. ファイルメニューからコピーを選ぶか、[F8] キーを押します。

コピーダイアログ・ボックスが表示され、選択したファイルまたはディレクトリーの名前がコピー元：ボックスに表示されます。この情報は、必要に応じて変更できます。ワイルドカード文字も使用できます。たとえば .doc という拡張子を持つカレント・ディレクトリー内のすべてのファイルを選択するには*.docと入力します。

3. ファイルをコピーしたいコピー先のディレクトリーのバス名をコピー先：ボックスに入力します。

ディレクトリー全体をコピーする場合は、ドライブ名（たとえば D : \）を入力すればディレクトリーがそのドライブにコピーされます。ディレクトリーをサブディレクトリーとしてコピーしたい場合は、ディレクトリー名も入力します。

[Alt] キーを押しながら [↓] キーを押すと、最近アクセスしたパス名のリストが表示されますのでその中から選択することもできます。

4. コピー先：ボックスで、ローカル・コンピューターまたは遠隔コンピューターの名前を選択します。

5. [Enter] キーを押して、ファイルのコピーを実行します。

コピーするファイルと同じ名前のファイルを上書きしていいかどうかの確認を求められます。

参考

ファイル置換の確認を無効にしていた場合、このメッセージは表示されません。

6. 確認ダイアログ・ボックスに表示されたファイルを上書きする場合は［Enter］キーを押し、同じ名前のファイルをすべて上書きする場合は［A］キーを押します。
また、確認ダイアログ・ボックスに表示されたファイルの上書きをスキップする場合は［N］キーを押し、コピー・コマンドを取り消す場合は［Esc］キーを押します。
各ファイルがコピーされるとき、画面上のメッセージにそのファイル名が表示されます。メッセージが消えたら、そのコピーは完了です。

◆ファイルまたはディレクトリーの削除

TranXitを使用すると、ローカル・コンピューターまたは遠隔コンピューターからファイルまたはディレクトリーを削除できます。

1. 削除したいファイルまたはディレクトリーを選択します。

2. ファイルメニューから削除を選ぶか、［Del］キーを押すか、またはツール・バーの削除ボタンを選択します。
削除ダイアログ・ボックスが表示されます。選択したファイルまたはディレクトリーの名前が削除ボックスに表示されます。この情報は、必要に応じて変更できます。削除編集ボックスではワイルドカード文字も使用できます。たとえば.docという拡張子を持つカレント・ディレクトリー内のすべてのファイルを選択するには、「*.doc」と入力します。

3. OKボタンを選択するか［Enter］キーを押して、ファイルまたはディレクトリーを削除します。
ユーザーは、削除の確認を求められます。

参考

この確認メッセージは、確認ダイアログ・ボックスにファイルまたはディレクトリーもしくはその両方の削除の確認を設定していた場合、あるいはファイルの属性がシステムまたは読み出し専用になっている場合にだけ表示されます。

4. 確認ダイアログ・ボックスに表示されたファイルまたはディレクトリーを削除する場合は［Enter］キーを押すかはいを選択し、選択されたファイルまたはディレクトリーをすべて削除する場合は［A］キーを押すか全てにはいを選択します。
また、確認ダイアログ・ボックスに表示されたファイルまたはディレクトリーの削除を避ける場合は［N］キー押すかいいえを選択し、削除コマンドを取り消す場合は［Esc］キーを押します。

◆ファイルまたはディレクトリーの移動

マウスまたはMove コマンドを使用することによって、ファイルまたはディレクトリーを同じコンピューター上のある場所から別の場所へ移動したり、コンピューターから別のコンピューターへ移動したりできます。

＜マウスによるファイルまたはディレクトリーの移動＞

1. 移動したいファイルまたはディレクトリーを選択します。

2. マウスの左ボタンと、[Ctrl] キーを押したままにして、選択したファイルまたはディレクトリーを移動先のディレクトリー・アイコンまたはドライブ・アイコンまでドラッグします。

3. マウスの左ボタンと［Ctrl］キーを離します。
TranXit は、マウス操作の確認メッセージを表示します。また、同じ名前のファイルを上書きしていいかどうかの確認をユーザーに求めます（無効にしている場合は確認メッセージは表示されません）。

4. 適切なボタンをクリックすることによって、移動を確認、または取り消します。

参考
ファイルまたはディレクトリーを選択したあとに、ツール・バーの移動ボタンをクリックすることによって移動することもできます。

＜キーボードによるファイルまたはディレクトリーの移動＞

1. 移動したいファイルまたはディレクトリーを選択します。

2. ファイルメニューから移動を選びます。
移動ダイアログ・ボックスが表示され、選択したファイルまたはディレクトリーの名前が移動元：ボックスに表示されます。この情報は、必要に応じて変更できます。ワイルドカード文字も使用できます。たとえば.docという拡張子を持つカレント・ディレクトリー内のすべてのファイルを選択するには、「*.doc」と入力します。

3. ファイルを移動したい移動先のディレクトリーの完全パスを移動先：ボックスに入力します。
ディレクトリー全体をコピーする場合は、ドライブ名（たとえばD:\）を入力すればディレクトリーがそのドライブに移動します。ディレクトリーをサブディレクトリーとして移動したい場合は、ディレクトリー名も入力します。[Alt] キーを押しながら［↓］キーを押すと、最近アクセスしたパス名のリストが表示されますのでその中から選択することもできます。

4. 移動先：ボックスで、ローカル・コンピューターまたは遠隔コンピューターの名前を選択します。

5. [Enter] キーを押して、ファイルの移動を実行します。

6. TranXitから移動の確認を求められたら、移動する場合は [Enter] キーを押し、移動を取り消す場合は [Esc] キーを押します。

参考

確認メッセージを無効にしていると、このメッセージは表示されません。

◆ファイルまたはディレクトリーの名前の変更

1. ファイルまたはディレクトリーを選択します。

2. ファイルメニューから名前変更を選びます。
名前変更ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 名前変更ボックスにファイルの名前が表示されます。

4. ファイルまたはディレクトリーの新しい名前を変更後：ボックスに入力します。ワイルドカードを使用して複数のファイルの名前を変更することもできます。
すでに存在するファイルの名前に変更しようとすると、そのファイルを上書きしていいかどうかの確認をユーザーに求めます。

5. 必要に応じてコンピュータ：ボックス内の名前を変更して、正しいコンピューター名を指定します。
これを行う必要があるのは、ローカル・コンピューターと遠隔コンピューターの両方で同じ名前のディレクトリーに同じ名前のファイルがある場合です。

6. OK ボタンをクリックするか [Enter] キーを押して、ファイルまたはディレクトリーの名前を変更します。
キャンセルボタンをクリックするか [Esc] キーを押して名前の変更を取り消すこともできます。

クリップボード

TranXitを使用すると、Windowsのクリップボードに保存されているデータをローカル・コンピューターと遠隔コンピューターの間で送受信できます。非常に大きいファイルの一部だけを印刷、転送、または編集したい方にとって、これは大変便利な機能です。この機能によりファイルの不必要な部分を他のコンピューターにコピーする必要はありません。クリップボードを使用して、テキスト、装置依存性のないグラフィックス、スプレッドシート・データ、およびその他多くのタイプのデータを交換することもできます。TranXit では、Windows for Workgroups のクリップブックもサポートしています。

◆クリップボードのデータを遠隔コンピューターに送るには

1. 両方のコンピューターで TranXit を起動し、それらの間に赤外線リンクまたはケーブル・リンクを設定します。

2. 一方のコンピューターで新ウィンドウボタンをクリックするか、ウィンドウメニューの新遠隔ウィンドウを選択します。
これで、ツール・バーにある 2 つのクリップボードボタンが使用可能になります。

3. ツール．バーのクリップボードの送信ボタンをクリックします。
あらかじめクリップボードに収められていた情報が遠隔コンピューターのクリップボードに送信されます。

参考
遠隔コンピューターのクリップボードの情報がすべて上書きされます。

◆クリップボードのデータを遠隔コンピューターから受け取るには

1. 両方のコンピューターで TranXit を起動し、それらの間に赤外線リンクまたはケーブル・リンクを設定します。

2. 一方のコンピューターで新ウィンドウボタンをクリックするか、ウィンドウメニューの新遠隔ウィンドウを選択します。これで、ツール・バーにある 2 つのクリックボードボタンが使用可能になります。

3. ツール・バーのクリップボードの受信ボタンをクリックします。あらかじめクリップボードに収められていた情報がローカル・コンピューターのクリップボードに送信されます。

参考

ローカル・コンピューターのクリップボードの情報がすべて上書きされます。

クリップボードのデータは、Windowsのクリップボードをサポートしている任意のアプリケーションによりコピーあるいは貼り付けを行うことができます。

障害追求

障害追求の詳細については、TranXit プログラム・グループ内の Readme ファイルを参照してください。

◆ 2 台のコンピューターのリンクに関する問題

▼割込み IRQ の競合がないことを確認します。この問題の最も一般的な原因は、サウンド・カードが IRQ7 になっていることです。

▼ケーブルまたは赤外線装置が両方のコンピューターにしっかりと接続されていることを確認します。シリアル・ケーブルが正しく機能するには、ねじで完全に固定されている必要があります。

▼両方のコンピューターで同じボー・レートを選択していることを確認します（シリアルと赤外線の場合のみ）。

▼それぞれのコンピューターで正しいポートを選択していることを確認します。

▼エラー・メッセージ「遠隔コンピューターにハード・ディスクが見つかりません。」が表示された場合は、遠隔コンピューターのハードディスク・ドライブに対し「アクセス・レベルなし」を設定している可能性があります。遠隔コンピューターの機密保護メニューでアクセス･レベルを読み出し／書き込みまたは読み出し専用に変更すると、TranXit はディスク・ドライブを再び認識するようになります。

◆遠隔導入に関する問題

▼遠隔導入処理の間、ローカル・コンピューターの転送速度を落とす必要が生じる場合があります。これは、遠隔コンピューターが処理速度の遅いシステムの場合に最もよく起こります。これを行うには、遠隔導入処理のボー・レート・パラメーターを変更して、ホストから転送されるデータを遠隔コンピューターが受け取れるようにする必要があります。ボー・レート・パラメーターを変更するには、TRANXIT.INI ファイルを編集しなければなりません。Windows の「メモ帳」や DOS の Edit などのエディターを使用して TRANXIT.INI を開いてください。ボー・レート・パラメーターは、「Advanced」というセクションに入っています。省略時のボー・レート設定は、57600 です。その他の可能な設定値は、9600、19200、38400、115200 です。適当な値に変更した後TRANXIT.INIファイルへの変更を保存してからエディターを終了してください。

◆ファイル転送時に関する問題

▼必ずそれぞれのコンピューターに別の名前を割り当ててください。コンピューター名の変更はオプションメニューの「コンピュータ名」を選ぶことによりできます。
▼コピーまたは移動したいファイルが見つからない場合は、表示メニューのフイルタ・オプションを調べてください。
▼シリアル・ケーブルを使ってデータを転送しているときにコンピューターのCOMポートを他のアプリケーションで使用しないでください。

◆赤外線データ伝送を使用するときの問題

▼直射日光、蛍光灯、白熱灯などの強い光が赤外線接続部に当たらないようにしてください。
▼遠隔制御機器（ワイヤレス・ヘッドホンおよびオーディオ機器）を赤外線接続部に向けないようにして干渉を防止してください。
▼一方の赤外線装置の向きを､他方の赤外線装置の受信部から30度以上そらさないでください。
▼２つの接続部の間に、赤外線伝送を妨害するような障害物を置かないでください。
▼データ伝送中は赤外線装置を互いに動かさないでください。外部電源なしの赤外線装置を使用している場合は、データ転送が切断される場合があります。
▼赤外線装置が外部電源を使用していない場合は特に､互いの距離を離しすぎないようにしてください。

◆クリップボード使用時の問題

▼クリップボード機能の1つによって送られたイメージに受信側のシステムで正しく表示されない場合は、そのイメージが装置依存のビットマップ（DDB）であることに起因している場合があります。DDBは､元のシステムで表示されることを前提にして作成されています。この現象は通常、元のシステムがより多くの色を表示するビデオ・モードで動作しているときに発生します。たとえば､元のマシンが256色モードで動作していて受信側のマシンが16色だけでWindowsを表示している場合です。これは､Windowsセットアップを実行して両方のシステムのビデオ・モードを一致させることによって解決できます。
▼エラー・メッセージ「クリップボード復帰エラー」または「クリップボードのメモリ不足」が表示された場合、問題は受信側システムのメモリー不足に起因していることがほとんどです。この問題を解決するには、受信側システムでもっと多くのメモリーを解放するか、クリップボードの内容をファイルに保存してそのファイルを TranXit ファイル・マネージャによって受信側システムにコピーします。

技術サポート

このバージョンの TranXit ソフトウェアは、このコンピューター製品の製造者から導入済み（プリインストール）アプリケーションとして購入されたものであり、このソフトウェア単独での再販は行っていません。製品のエンド・ユーザー・サポートは、製造者（松下電器産業株式会社）が行います。

PUMA TECHNOLOGY, INC. からエンドユーザーへのお知らせおよび使用許諾契約

エンドユーザーへのお知らせ：以下の法的な取決めをよく注意してお読みください。お客様のコンピュータ・システムに導入済みの TRANXIT ™ ソフトウェア（以下「ソフトウェア」と呼びます）は、お客様が以下の条件を受諾することによってその使用が認められます。この契約の条件に同意しない場合は、コンピュータ・システムのソフトウェアを即座に削除し、そのソフトウェアまたはシステムに付属しているソフトウェアの導入ディスケットから作成したいかなるコピーも破壊し、本ソフトウェアについて記載された所有資料のすべてを処分してください。

著作権：本ソフトウェアは、米国著作権法および国際条約により保護されています。お客様は、本ソフトウェアの知的財産権が何らお客様に譲渡されないことを承認するものとします。またお客様は、本ソフトウェアの完全な所有権が Puma の排他的財産であり続けること、および本使用許諾契約に明示されていることを除き、お客様が本ソフトウェアに対するいかなる権利も取得しないことを承認するものとします。お客様は、本ソフトウェアのいかなるコピーにも、その外部および内部に同じ著作権表示が含まれることに同意するものとします。

使用許諾：Puma は、お客様が個人として本ソフトウェアのコピー１部を２台のコンピュータで同時に使用することを、非独占的に許諾します。本ソフトウェアの使用許諾は、本契約書の条件に従います。お客様は、本ソフトウェアを必要な数だけコピーし、本使用許諾に従って使用することに同意するものとします。使用許諾は、本ソフトウェアの各エンドユーザーごとに必要です。本ソフトウェアを（1）ファイル転送を実行するために第三者が所有する PC に一時的に導入し、（2）その PC からはすぐに削除する場合を除き、使用許諾はそれぞれの導入先 PC の数だけ必要です。お客様は、保存用の目的に限って本ソフトウェアのコピーを一部作成できます。

エンド・ユーザーのサポート：このバージョンの TranXit ソフトウェアは、独立したコンピュータ製造者から導入済み（プリインストール）アプリケーションとして購入されたものであり、このソフトウェア単独での再販は行っていません。この製品のエンド・ユーザー・サポートは、製造者が行います。Puma では、Puma からの直接のエンド・ユーザー・サポートも含めてソフトウェアの更新を行います。

使用上の制限：Puma から事前に書面で許可を得ない限り、お客様が以下のことを行うことはできません。(a.) 本契約で明示的に認められている以外の本ソフトウェアまたは文書の使用、コピー、修正、改変、または譲渡。(b.) 本ソフトウェアの翻訳、逆アセンブル、逆コンパイル、逆プログラム、またはリバース・エンジニアリング。(c.) 本ソフトウェアまたはその文書のサブライセンス、またはリース。(d.) 複数ユーザー、ネットワーク、複数コンピュータ環境、レンタル業務、時分割業務、またはコンピュータ・サービス業務での本ソフトウェアの使用。

保証期間：Puma では、本ソフトウェアが付属の資料に従って購入日から９０日間有効であることを保証します。本ソフトウェアに関するいかなる暗黙的な保証も９０日間に制限されます。

エンド・ユーザーの救済：本ソフトウェアが上記の「保証期間」の節に適合しない場合、Pumaの責任全体とお客様の唯一の救済方法としては、(a.) エラーを修正する、(b.) お客様によるエラー処理を支援する、のどちらかをPumaが選択することになります。ソフトウェアの障害が事故、濫用、または誤用に起因する場合、保証期間は無効になります。代替ソフトウェアは、元の保証期間の残りの間、保証の対象になります。

その他の保証の否認：「保証期間」の節に明示された事項を除き、Pumaは本ソフトウェアに障害が発生しないことは保証しません。Pumaは、製品の商品価値、特定の使用目的に対する適合性、および第三者の権利を侵害しないことの暗黙的な保証を否認するとともに、明示、黙示を問わず、本ソフトウェアに関するその他のすべての保証を否認します。司法管轄区域によっては、暗黙的保証の除外または暗黙的保証期間の制限、あるいは不慮の損害の有効期限の除外を認めておらず、上記の制限または除外がお客様に適用されないことがあります。この保証はお客様に特定の法的な権利を与えるものであり、お客様は司法管轄区域によって異なるその他の権利を持つ可能性があります。

必然的損害の責任の否認：いかなる場合においてもPumaは、本ソフトウェアの使用時または性能に生じるいかなる種類の必然的、特殊、不慮、または間接的な損害に対し、そのような損害の可能性がPumaに伝えられていた場合においても一切の責任は負いません。

責任の限定：何等かのクレームに対するPumaの賠償責任は、契約事項の不履行、不法行為、またはその他いかなる賠償責任の理由によろうとも、お客様がPumaに直接支払った使用許諾料を上限とします。

米国政府の権利の制限：本ソフトウェアおよびその文書は、権利を制限して提供されています。州または地方自治体による使用、複製、または開示は、DFARS 第252.227の (c) (1) (ⅱ) 項「技術データおよびコンピュータ・ソフトウェアにおける権利」または48CFR 52.227-19の「商用コンピュータ・ソフトウェアにおける権利の制限」の (c) (1) および（２）項に定義される制限に従います。

商標および特許：TranXitおよびPumaは、Puma Technology, Inc.の商標です。その他の商標も、それぞれの保有者の所有物です。

適用法：本使用許諾契約は、カリフォルニア州内で結ばれて実施されるカリフォルニア在住者間の取り決めにカリフォルニア州の法律が適用されるように、本使用許諾にもカリフォルニア州の法律が適用されます。この契約書に対する「国際商品販売契約に関する国連協定」の適用は、明確にかつ完全に否認します。

さくいん

◆数字◆

◆ A ◆

◆ B ◆

◆ C ◆

◆ D ◆

◆ E ◆

◆ F ◆

◆ I ◆

◆ L ◆

◆ M ◆

◆ P ◆

◆ R ◆

◆ S ◆

◆ T ◆

◆ V ◆

◆ W ◆

◆あ行◆

◆か行◆

◆さ行◆

◆た行◆

◆は行◆

◆ま行◆

◆や行◆

◆ら行◆

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください
転居や贈答品などでお困りの場合は…
・修理は、サービス会社・販売会社の「修理相談窓口」へ！
・その他のお問い合わせは、
「パナソニックモバイルテクノセンター」へ！

■ 保証書（別添付）

必ず、お買い上げの販売店からお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめのうえ受け取り、よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から1年間

■ 修理を依頼されるとき

『困ったときに開くページ』に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
ただし、補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。
注）性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

松下電器産業株式会社　情報周辺機器事業部
〒570 大阪府守口市八雲東町1丁目10番12号　TEL (06)908-1001

Printed in Japan
F0896-0
ITT0265AA